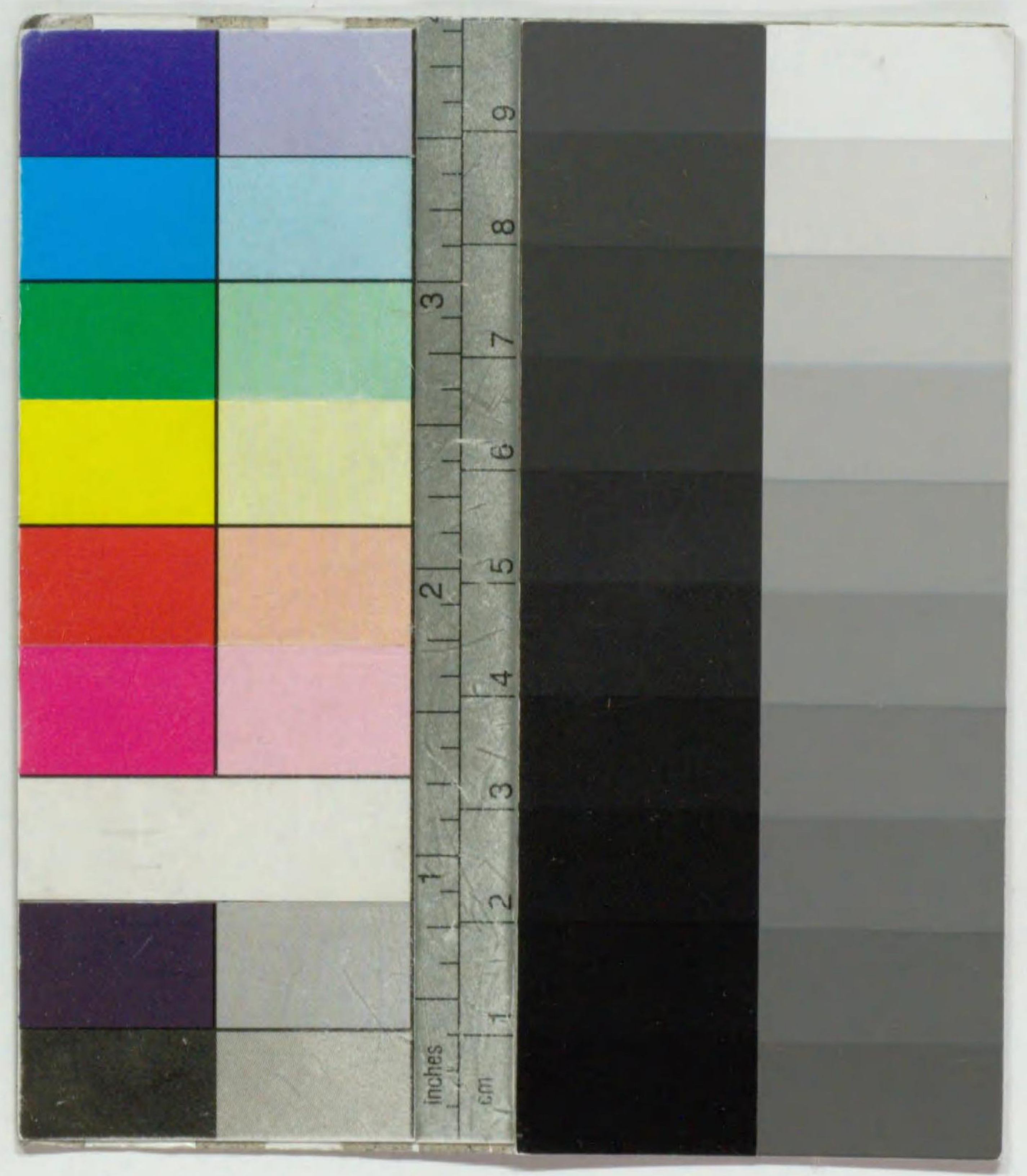


山林都市
二名林間都市
全

549
365

549-365
1200501507509



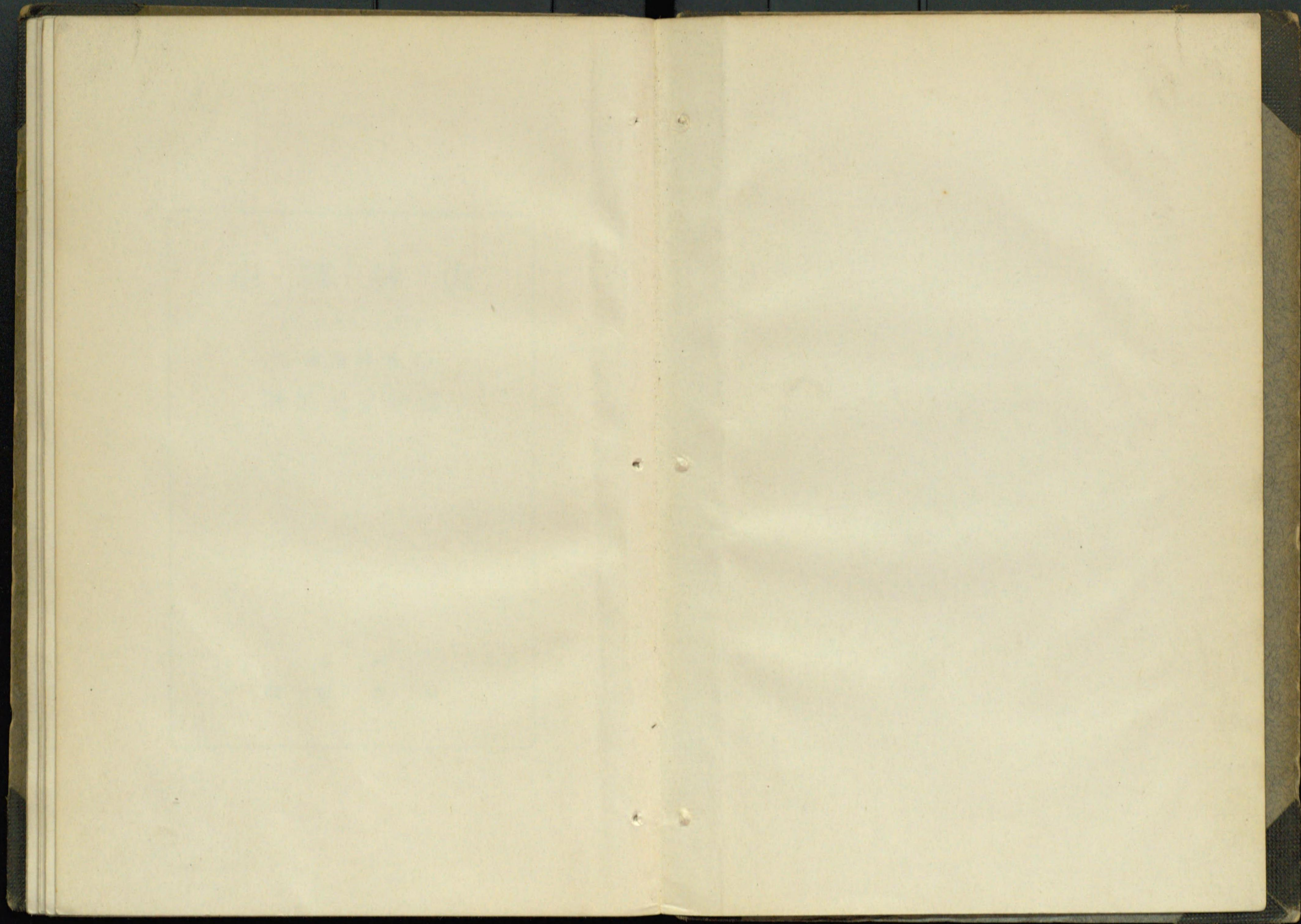
山 林 都 市

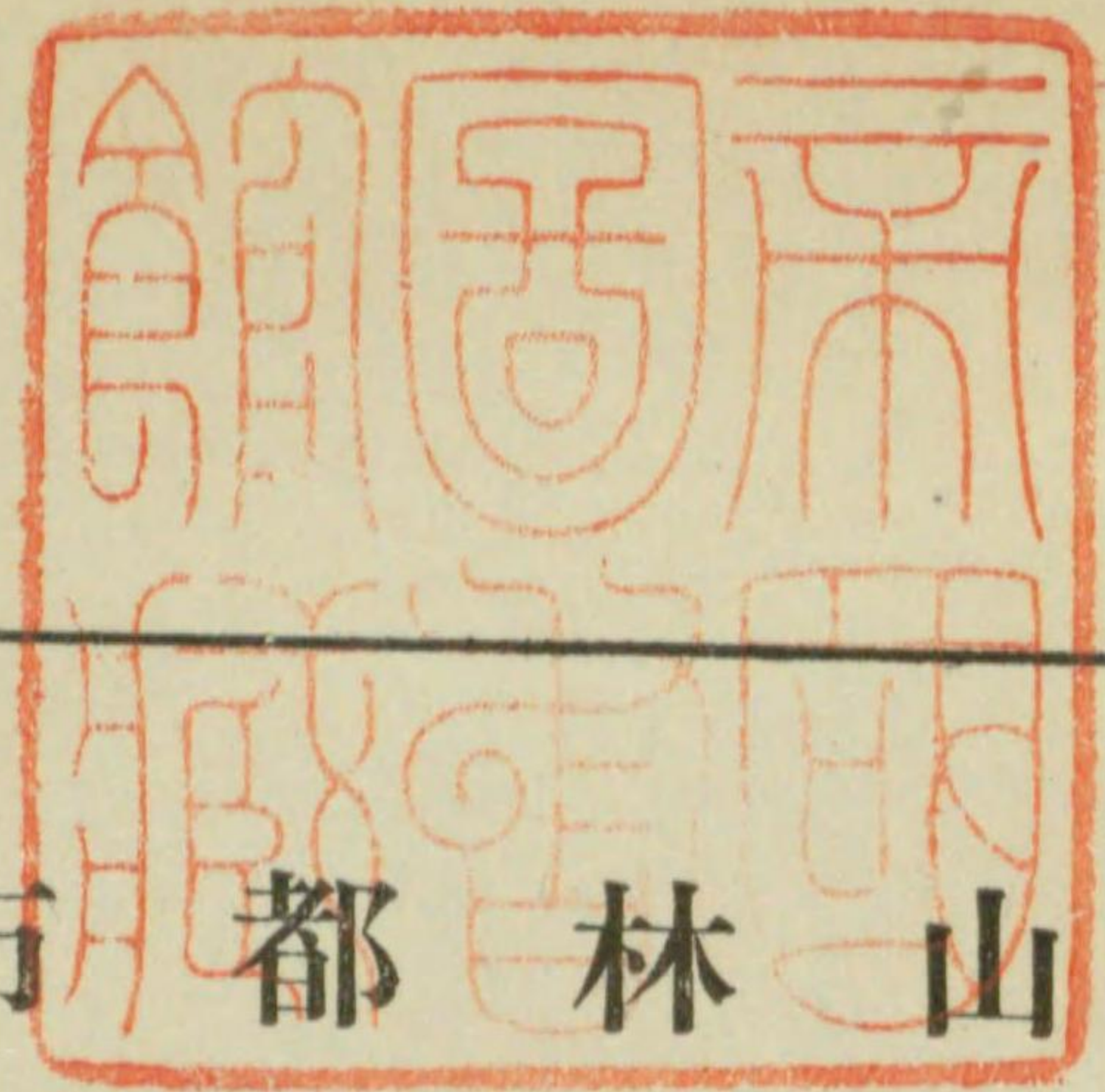
Forest City

(一 名 林 間 都 市)

黑 谷 了 太 郎 著

廣 台 社 京 版





市 都 林 山

Forest City

(市 都 間 林 名 一)

著 郎 太 了 谷 黒

京 東
版 社 台 曠



序

此の山林都市一名林間都市は、都市と工業とを、生活と生産とを、研究して居る私の「ユートピヤ」である。ユートピヤは實現の價値なき夢だと云つて嘲つた時代は過ぎ去つた。ユートピヤは事實に於て文明の母である。

ユートピヤを實現しやうとする努力と奮闘とが、發明や發見を産み、更に革新と改造とを成就して遂に今日の文明をも産み出したことは、覆ふべからざる事實である。されば私の此のユートピヤも、一口に價値なきものと貶さずに、眞面目に耳傾けられて、何とかして實現する方法を研究してくれたならば、獨り私の爲めのみならず、社會の爲めにも國家の爲めにも、如何に幸福であらうかと思ふ。其の大意は別項の通りである。

- 一、都市集中は社會諸種の弊害を醸生すること。
- 二、都市集中は都市自身の爲めのみならず國家の爲め、甚だ不利益なること。
- 三、都市集中に基く都市内の弊害を除去するは、近代的都市計畫の精神であらうけれども、我國に於ては之れが頗る困難なること。
- 四、英國に於ては都市救済の根本策として都市集中に反對し、田園都市を作りて人口の分散^{デセントラライゼーション}を企てつゝあること。
- 五、我國に於ても都市生活を有意義ならしめんが爲めには、都市集中を避け、別に新しき町、即ち新理想都市を築造せざるべからざること。
- 六、然も日本に於ては土地高價なるを以て、英國に於けるが如く田園都市を築造する能はざること。

七、我國に於ては山林を利用し、田園都市の代りに、山林都市を建設せざるべからざること。

八、山林都市は、田園都市の精神に基き、工業を中心として市街を建設し、市民をして衛生的に、文化的に生活せしむるものなること。

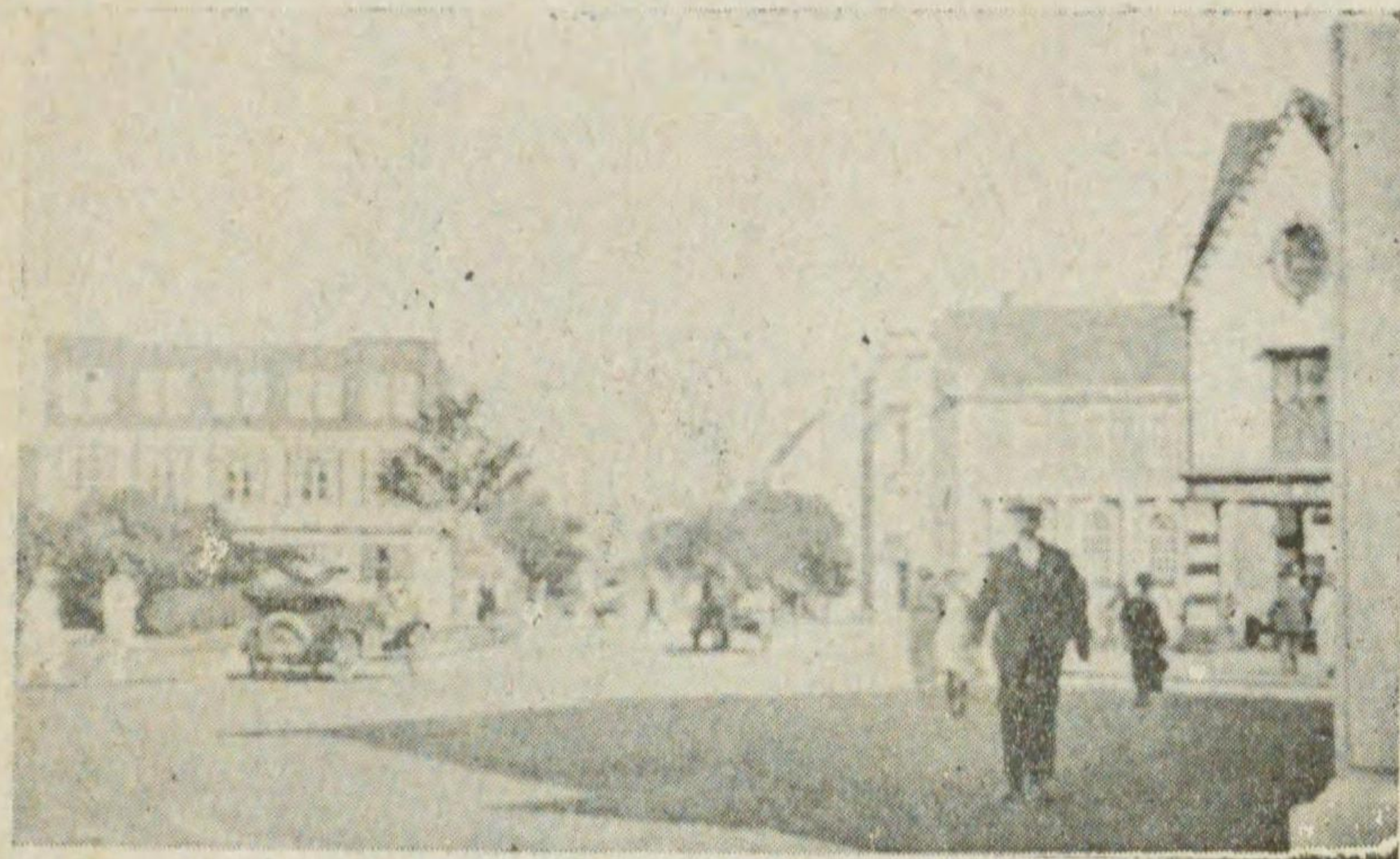
九、山林都市は、ロマンティズムに従ひ、築庭的に計畫せられ、人工美と自然美とを好く調和せしむるものなること。

一〇、山林都市は、田園都市よりも、より多く大自然に接近せしむるものなるを以て、大都市の不自然なる唯物的鬭争生活を離れて、萬物共存の自然的共同生活に復歸せしむるものなること。

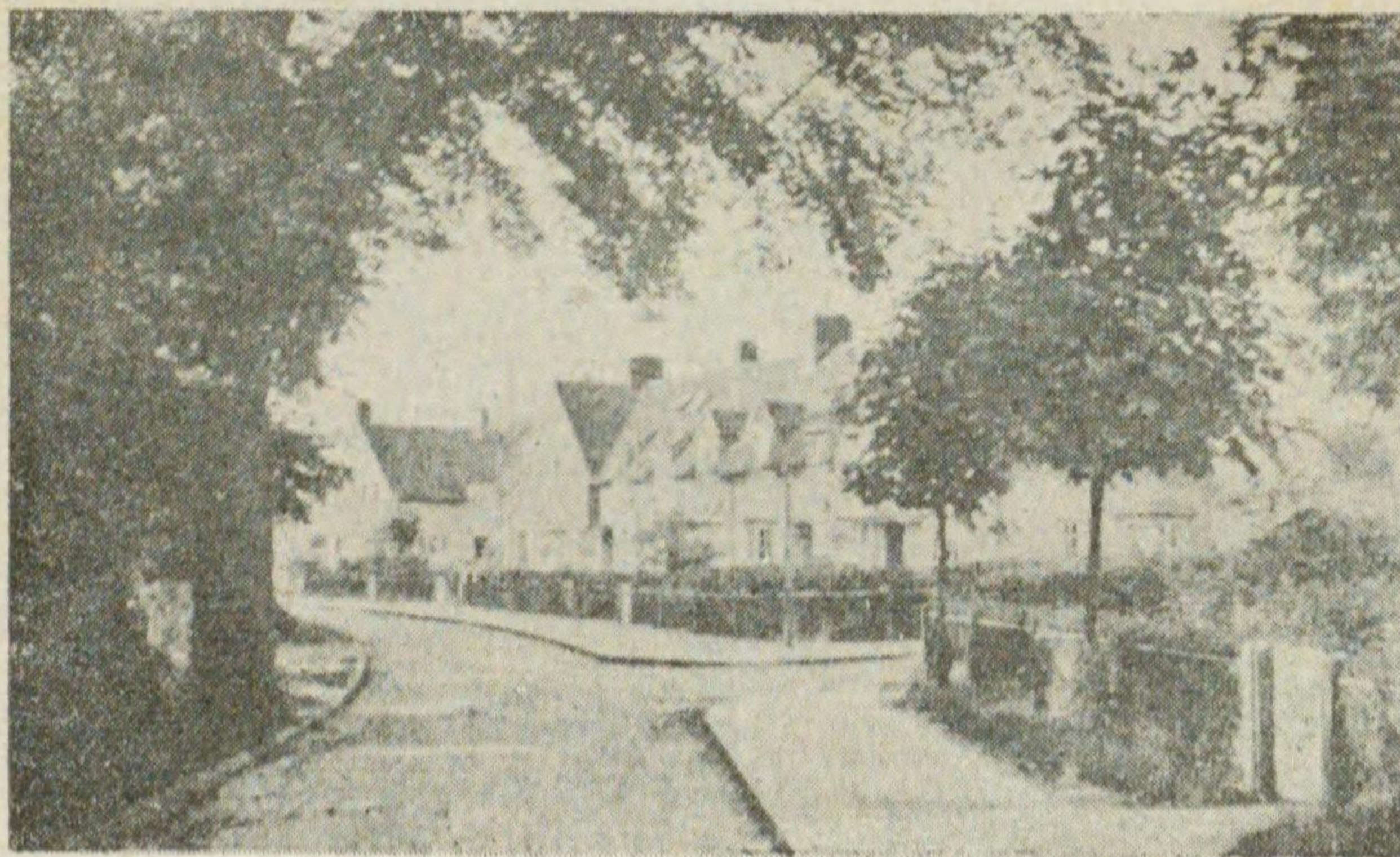
一一、山林都市は、都市の文化設備と、天然自然の美觀とを併せ有せるものなるを以て、市民は楽しく働きて、美しく生活するを得、従つて能率は増進し、精神は

安定し、労働争議は之れなきこと。

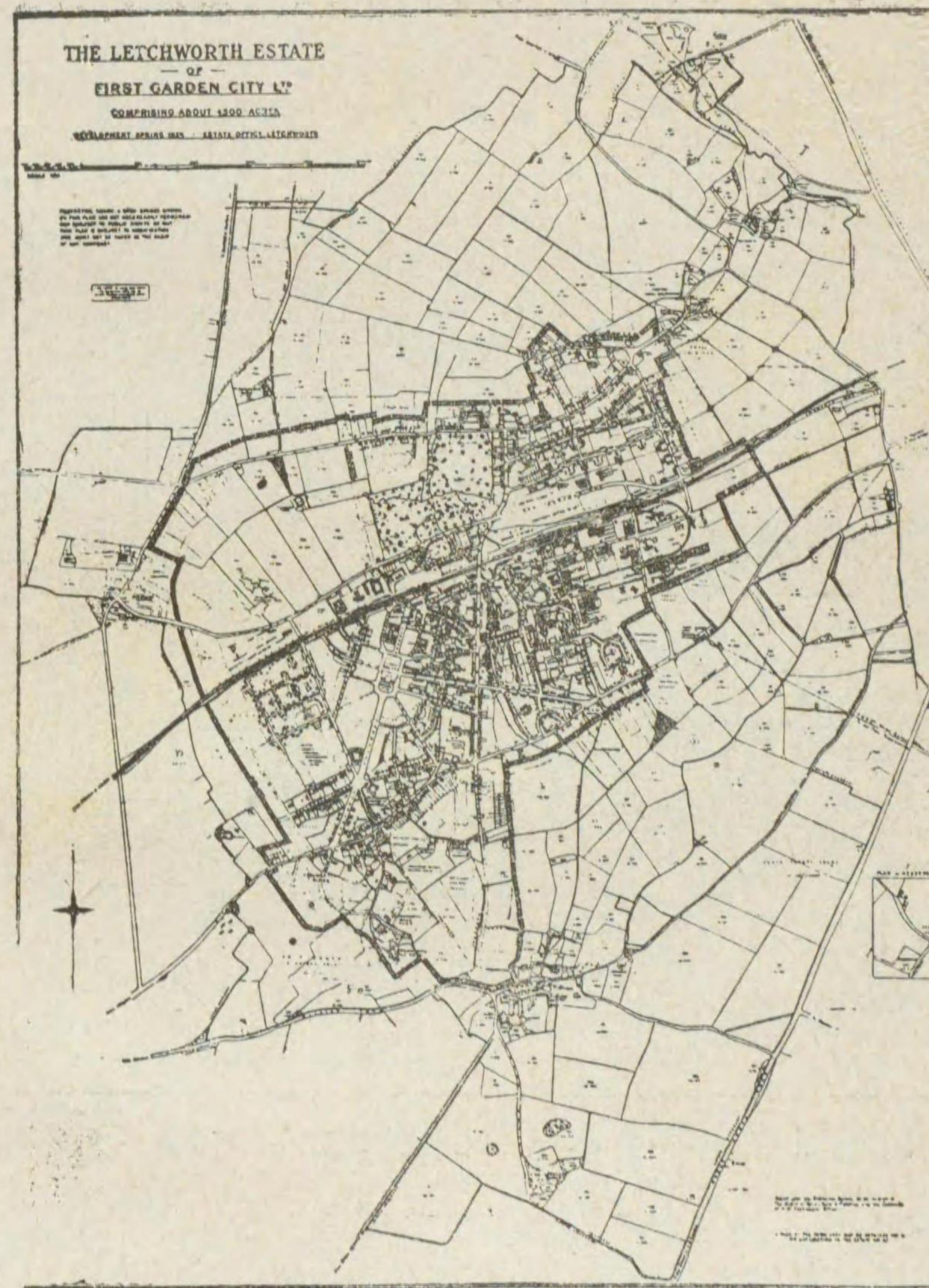
一二、故に社會改良家及科學的工業經營家は、是非共山林都市の建設に努力すべきこと。



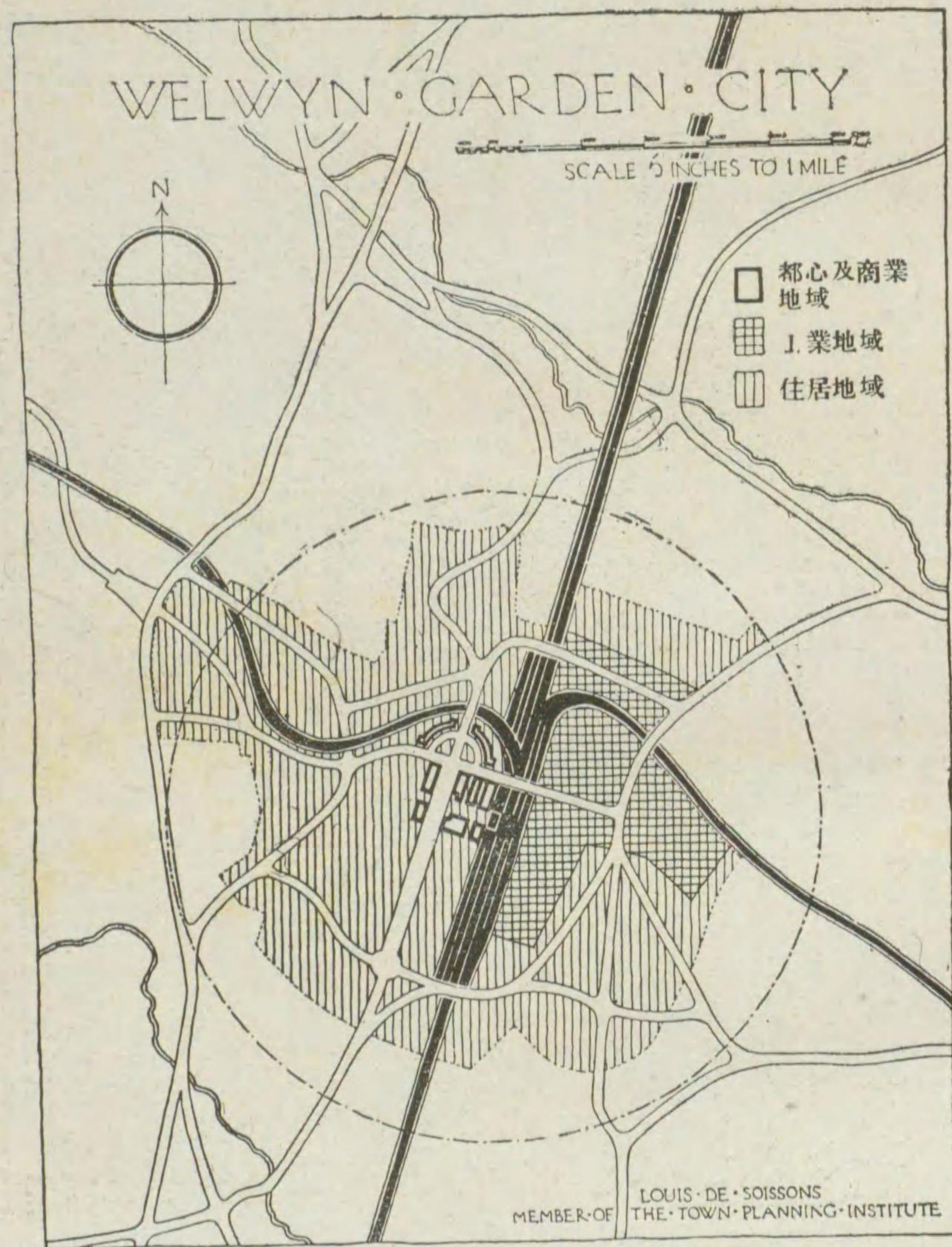
地業商のズーナチツレ



宅住者働勞のズーナチツレ



圖全畫計市都園田のズーナチツレ



制 域 地 の ン キ ル エ

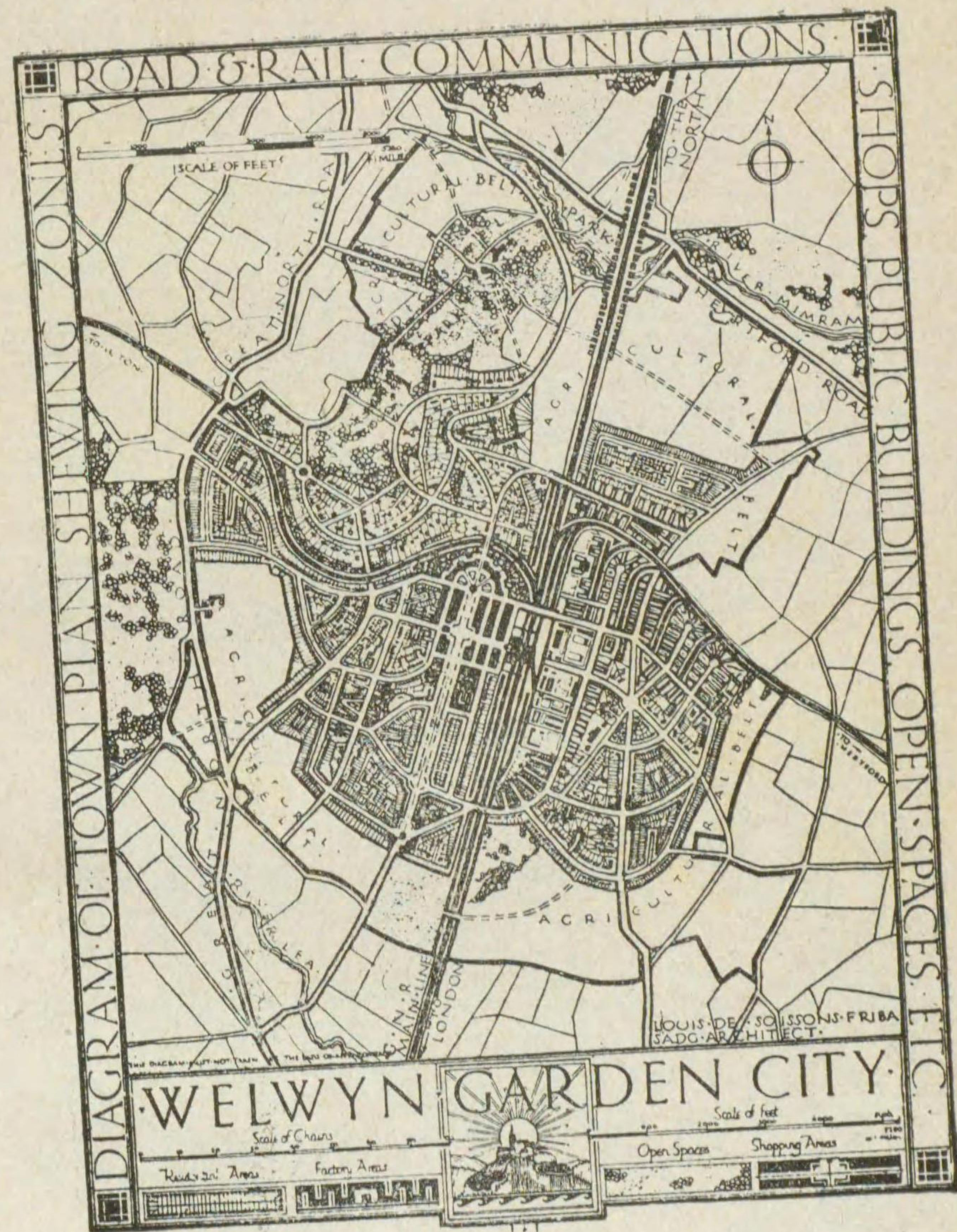
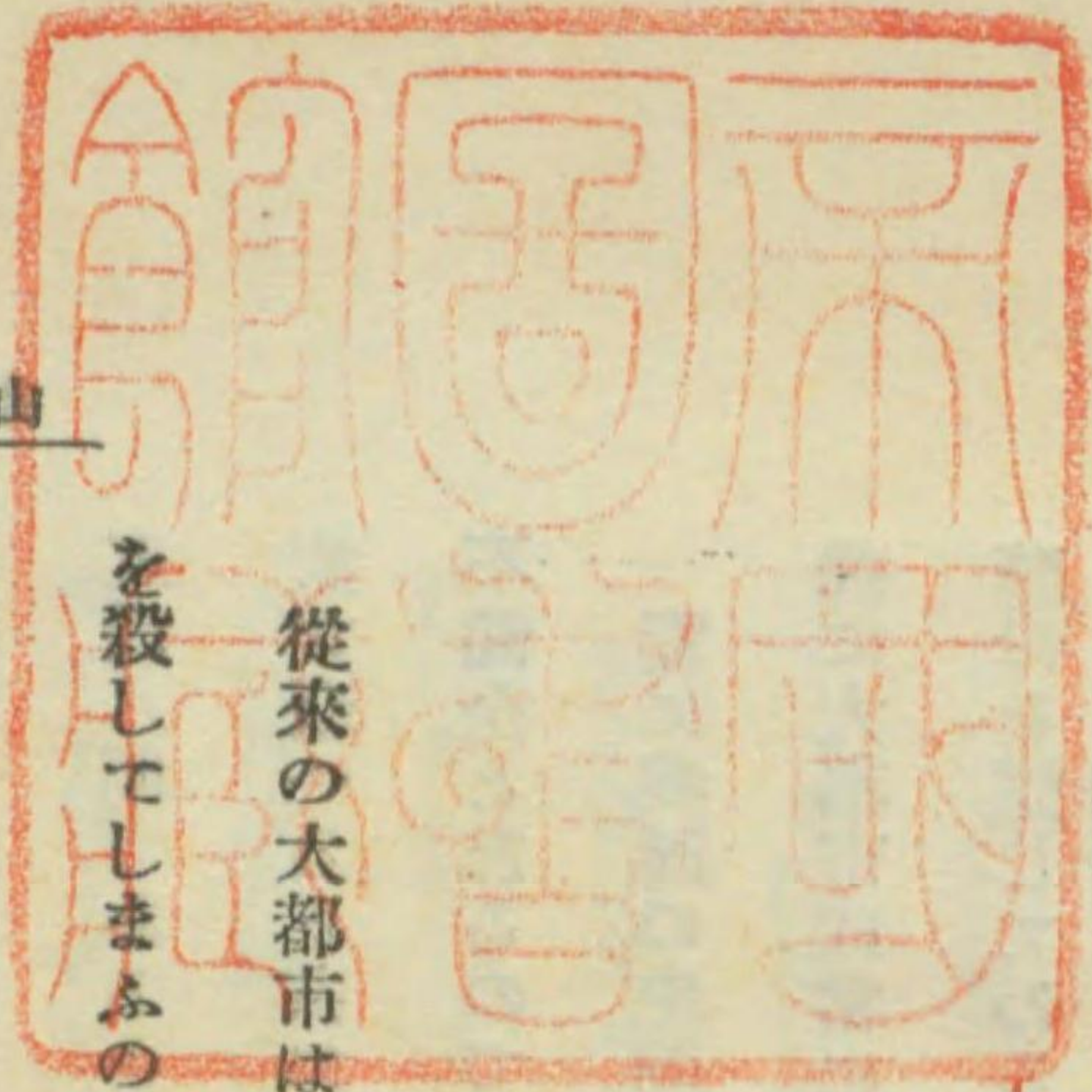


圖 畫 計 市 都 園 田 の ン キ ル エ



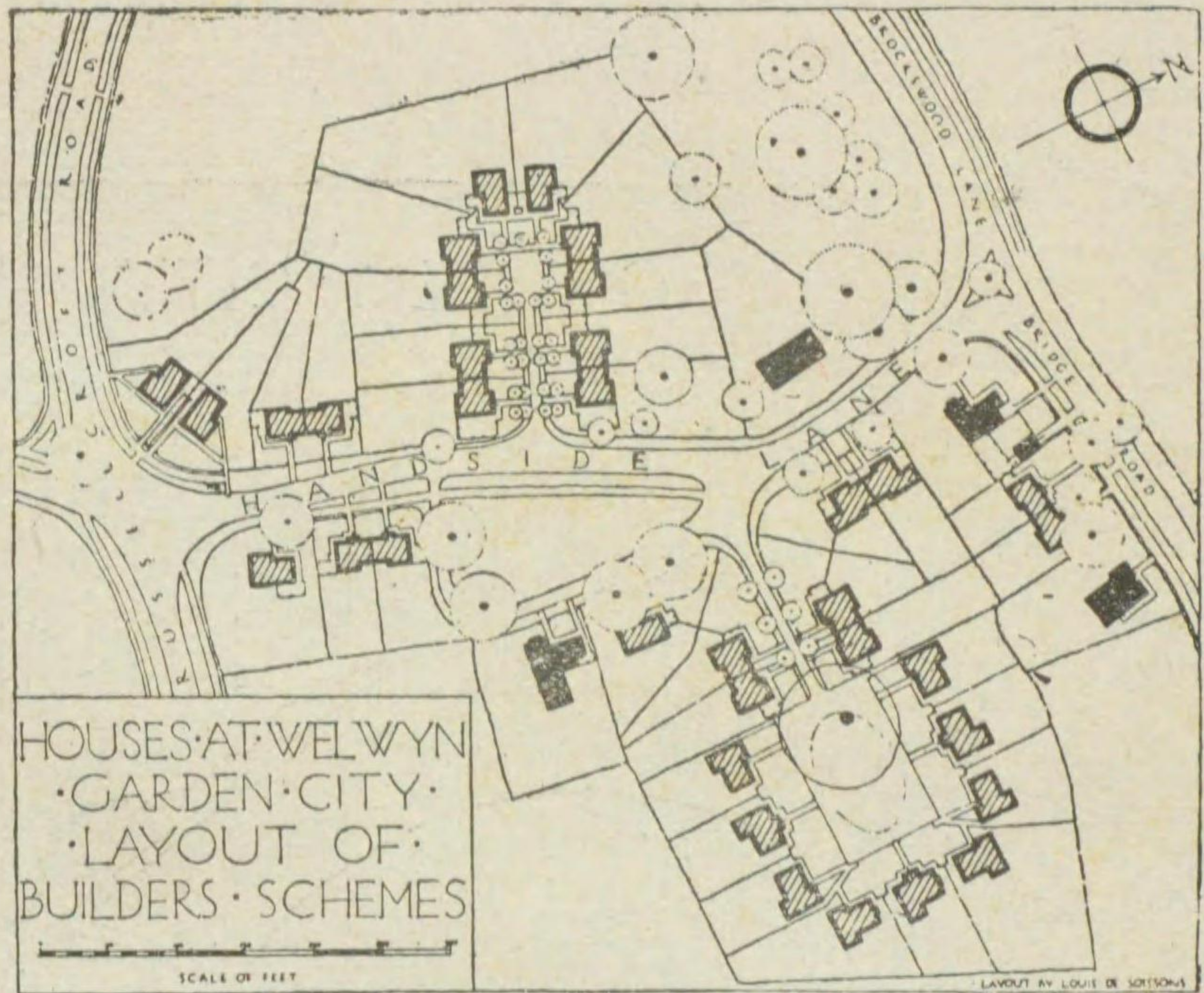
山林都市 Forest City

(一名林間都市)

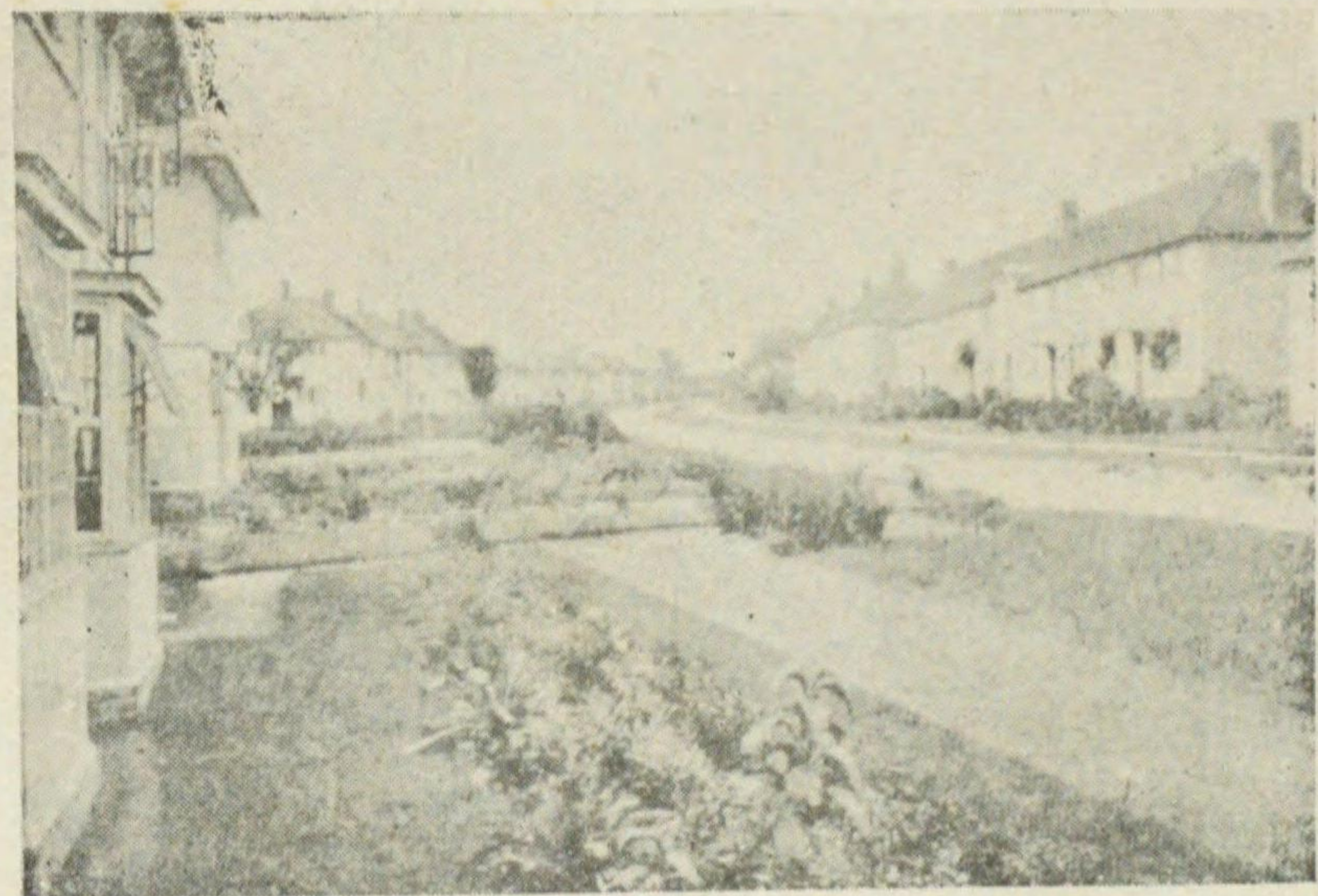
黒谷了太郎著

従来の大都市は、恰も誘蛾燈の様なものであつて、人を四方から引付けて而して之を殺してしまふのであるが、多くの人は之を知らずに清らかな農村を見捨て、都市へ都市へと集まつて来て、窮屈な住宅に入つて、汚い空気を吸つて、悪い病氣に罹つて、代る／＼消えて行くのは、誠に氣の毒なことである。

我國民の死亡者平均年齢は、明治十九年には男が三十八歳一三で、女は三十八歳九



例一の計設域地居住のンキルエ



路小ドツウ・スクツロブのンキルエ

一であつたが、其の後國民の都市集中が烈しくなつたので、其の年齢が段々短くなつて、大正六年には男が三十一歳七二、女は三十二歳二、平均三十一歳九六、と云ふことになつた。而して名古屋は平均三十歳九六で、神戸は二十六歳五六で、大阪は二十五歳八四であると云ふ様な譯で、我國民は都市に集中するに従つて、壽命の幅即ち健康が衰へると共に、壽命の長さが短縮して、國民としては羸弱となり、社會としては不健全となるので、國家の利益から見れば實に寒心に堪へない次第である。

實に我國の犯罪は近來顯しく増加してゐるが、之れも都市集中に基く現象で、都市殊に大都市は常に惡漢や悖德者を吸収したり、不良少年を養成したりして不絶犯罪の酵母を醸してゐるからである。大正元年中の犯罪件數の中強竊盜、詐欺、恐喝件數は二四六、〇九三件に過ぎなかつたが、大正十三年の其れは四一九、一三四件の多きに達し、其の中一五五、六三四件は實に六大都市の存在する三府三縣に於て犯されたも

のであつたのである。而して六大都市を中心とする府縣の犯罪は人口の集中率よりもより以上の速力を以て増加して此等の都市の脅威となつてゐるのみでなく、全國的不安さへも醸成してゐる。

此の都市集中と云ふことは、世界の社會史を繙くまでもなく、西洋では十六世紀に於ける Land enclosure 即ち土地私有制度の認定以後から著しくなつたもので、小作人は地主の誅求に堪へ兼ねて、農園を捨て、都市に彷徨と云ふことになつたのだ。當時の有様を書いたものを見ると、大道には憐れなる貧民や、逐ひ出された乞食で充ちて居り、債主に土地を取り揚げられた數千の農民は、飢餓に迫つて居る子供を連れて、裁判所の戸口に立つて土地の回復を訴へるけれども、少しも顧られないので、其儘乞食をして、倫敦の市中を彷徨して居るとある。其の結果として田園は荒廢して都市は矢鱈に膨脹する、細民は益々増加して、社會上誠に忌はしき状態となつた。當時の民

語を見れば、

The towns go down, the land decays,

Great men maketh now-a-days,

A sheep-cote in the church

町はふくれる田舎はほそる。

當世風のお地頭様は。寺の本堂で羊飼ふ。

と云つて、悲惨なる産業萬能の社會狀態を諷刺して居る。如此形勢は十八世紀末の産業革命以來一層甚しくなり、村落の人民は年々歳々都市に吸収せられることとなり、農園は殆んどなくなつて、茫々たる牧場と變つてしまひ、都市は不規則に益々膨脹して家屋は建込む、其處彼處に工場が出來て、交通が頻繁となり、黒煙が天に漲つて塵埃が空を覆ひ、喧しき音や不愉快な響きが絶えず神經を刺戟して、生活の安全を

脅かすこととなり、文明に赴くと共に文明の意義が分らないことになつた。

實に相當資産のある者は、所謂ミルリヨリーナス、サバープに廣大な邸宅を設けたり、綺麗な庭園を築きて慰藉も快樂も充分に得られる譯であるが、多くの人間は市中の裏棚に蟄居して、日光さへも拜むことが出來ずに燻つて居ると云ふ有様、斯くの如き生活には決して文化も幸福もなく、日中は工場の煙と塵埃の中に働いて、夜は汚い陋屋に寝て居つては、何の慰藉も快樂も得られない。其處には犯罪の卵や、結核の微菌が養成せられて、自ら滅び行くのみならず、其の害毒を社會に流布して各人の幸福や國家の安寧を損ふこととなるのである。

併し之れは西洋に限つたことではなく、我が國も戊辰以後は社會狀態が一變して、都市集中に基く諸種の弊害を蒙つて居る。我國では英國に於けるが如き、インクロジニアの弊害を受くることは少ないけれども、侍階級が秩祿を奪はれて大都市に集まつ

たり、教育を受けた青年が郷里に於て衣食すること出来ないので、職を求めて商工都市に集中せらるゝことは争はれぬ事實である。

戊辰以後は我國に於ても産業革命の餘波を受けて、工場工業が弗々勃興することゝなつたが、我國は西洋各國と異つて、天然資源の蓄積が極めて貧しいのみならず、石炭の分布が兩極端に偏して居るために、工業の分布も極めて悪しく、多くは六大都市及洞海湾附近に集中せられて、だらしなく發達して居る。其の結果として人口も其處に集中せられて、黒煙や塵埃や、小動物や微菌と同居して居る。心なき人は此の状態を見て、都市が大きくなつたと云つて悦んで居るが、焉んぞ知らん其の細胞たる市民の多くは、九尺二間に蟄居して、僅かに家族を臥かすに足りる丈けである。

殊に今日は住宅が拂底して、家賃は目の飛び出る程高くて、間借生活をなして居るものも亦尠くない（住宅の拂底は初めて本書を認めた大正十年頃のこと、其の後は

空屋が多少殖へたに拘らず、家賃は下るところか上る一方で、間借生活は益々増加の形勢である）此等は家に住んで居ると云ふよりも寧ろ收められて居るも同然にて、生活して居ると云ふよりも寧ろ棲息して居る丈けで、其處には文明の光も文化の風も入らるのである。

こんな處に住んで居る人には青空さへも望み見ることが出来ない。況んや自然の綠や、四季の美しき色彩を見ることは出来ない。故に其の感情は自ら荒み果て犯罪の起るは少しも怪しむに足らない。

六大都市の存在する三府三縣の犯罪件数が、全國のその約三分の一以上に達するものも決して不思議はない。其處には輝々たる日光も入らない、其處には新鮮なる空氣も通はない。故に微菌は悦んで繁殖して全市に蔓延する。病人や死人の多いのは當然である。病院や、墓地が幾ら多くとも足るべき筈はない。斯の如きは都市の悲惨と云

はずして何と言はう。實に斯の如き悲惨より都市を救済し様と云ふのが英國の都市計畫であるが、日本の都市計畫は果して同様であるや否や、甚だ疑問である。

英國の都市計畫の精神は、社會改良家たるロバート・オーエンや、ジェームス・シルク・バツキングムや、シャフツベリーハムや、エドキン・チャツドキツクの社會政策から發足したものと云ふことが出来る。オーエン氏とバツキングム氏とは、社會救済の見地から自個の資本を投じたり、株式を募集して新都市の建設に努力した。其の計畫は不幸にして蹉躓したけれども、其の志は決して滅せずして、今日の田園都市を産んだものとも云へるのである。シャフツベリーハムとチャツドキツクは、英國の社會事業の基礎を築いた人であるが、兩氏は主として在來都市の改良に努め、以て現在の都市計畫法を産み出したものである。殊にチャツドキツク氏は、社會改良の第一着歩は國民の健康に在りとなし、衛生事業に全力を注ぎたるのみならず、熱血を振つて

工場法や、貧民法の改正や、社會保險や、住宅問題の基礎を築いたのであるが、其の衛生條例から建築條例が産れ、建築條例から更に都市計畫條例が産れたのである。

されば英國に於ける今日の都市計畫は米國の其れとは異り、全く此等の社會改良家の精神に基いて、都市生活の弊害を救はんとする、一種の社會事業であると言つても宜しいのである。然るに這種の事業は、もと／＼容易の事業でない爲めに、都市生活の悲惨は十九世紀末に於ても依然として著しいので、エベネザ・ホワード氏は之を見兼ねて「明日の田園都市」を著し、根本的に都市の悲惨を救済するには矢張り、オーエン氏やバツキングム氏の企てた様に田園都市を作り、以て人口の分散即ちデセントラリゼーションを圖り、而して其處に人間としての意義ある生活を営ましめねばならぬ、と絶叫したのである。

其の叫びは最初は空想家の夢に過ぎぬと嘲けられたが、豈に計らんや同氏の理想

して居る田園都市は、ボンヰキールのチョコレート製造会社のジョーヂ・カッドバリー氏や、ポートサンライトの石鹼製造工場主のキリヤム・レヴァー君に依りて、其の著書の出版前に實現せられて、好成绩を擧げて居ることを知るに及んで、ホワード氏の理想は初めて眞理であると云ふことが分り、其の理想の實現を企圖すると共に現在の都市其物も田園都市化をしなければならぬと云つて、田園サブurbを計畫することゝなり、今日では英國の都市計畫は、殆んど此の精神に依りて實行せられて居るものと云つても宜しいのである。

然るに日本に於ては如何であらう。法律上、都市計畫と稱するは交通、衛生、保安、經濟に關する重要施設の計畫を謂ふとあり、社會的施設の計畫も其中に含んで居ないとは云へないが、之に關係して居る人々や、之に就ての議論から想像するに、日本の都市計畫は全く實利主義から出發したものであつて、迎も社會改良など云ふことは

夢にも考慮してない様に思はれる。其の證據として孰れの都市に於ても、倫敦や紐育や市俄古の様な大々都市を作らうとして居る。倫敦の都市計畫は、都市の大々の膨脹は、社會上、經濟上忌まはしきことであるから、衛星都市（衛星が太陽の周圍に一定の距離を保つて散在して居るが如き都市を云ふ）を作つて人口のデセントラリゼーションを企て、居るのに、日本に於ては恰も其の正反對に、都市集中や一點集中を推奨して、何んでもかんでも、コンセントレートしやうとする傾向を示して居る。之れでは高速度の交通機關が、幾ら出来ても混雑を救ふことが出来ず、益々混雑を増す許りであるのみならず、社會上、經濟上甚だ面白からざることゝなるのである。

尤も日本の都市計畫に於ても衛生と云ふことは多少考慮せられて、建築物法には建築物面積の制限はないでもないが、事實此の規定に伴つて、人間生活に必要な空地は保障せられない事情がある。日本人の頭には土地を可成集約的に使用するのが經濟で

ある、と云ふ穿き違ひの經濟觀が凝り固つて居る。之は東洋固有の厚生經濟を忘れてアダムスミスの薄生經濟にかぶれた爲めに、澤庵と梅干を喰べて居れば一番經濟であるといふのと同然である。されば労働者の如き、高いアパートメントを造つて之に收容したら宜しいと云ふ説が随分有力である、人間を積み重ねる位なら、先づ以て商品を積み上げて貰ひたい。日本の都市には到る處に貧弱なる小賣店が土地を領して居る。こんな物こそ大きなデパートメントストアに收容して欲しいものだ。商品なら兎も角、人間を積み重ねることは衛生上、保安上甚だ不良なるのみならず、米國都市に於て目下苦んで居る交通上の混雜を來たす基で、之れ程忌はしいことはない。

斯くの如く日本に於ては、往々人間を貨物より安つぽく見て居る處から労働者の住宅は工業地域内に置けば宜しいと云つて居る人の尠くないのは毫も怪しむに足らないけれども、之れは日本古來の道德を無視して西洋式のオートクラシーや、ブルジョア

シーから來た思想で、人道上甚だ宜しくない許りでなく、衛生上甚だ悪いことは勿論、科學的見地より云へば所謂整調コイオーデネーションの原則に背く譯にて、經濟上之れより不經濟なものはない。工業地域と云へば夫れく、工業に必要な運河とか鐵道とかを開設しなければならぬ譯であるが、此等は必ずしも住居に必要なものではない。必要のない者の爲めに此等の機關を開設したり、延長したりすることは、不經濟と云ふよりも寧ろ浪費と云はざるを得ない。

乍去西洋でも十九世紀までは實にこんな風であつた。而して目的とする所は單に人口の増殖と金儲とに止まつて居つた爲め、其の計畫としても唯々産業の發達に資せんが爲め交通の便利を圖ると云ふこと、ヴァニテイの爲めに都市を美化すると云ふ位が關の山であつた。其の結果として都市に迷ひ込む者は愈々多く、其の弊害を受くる者も益々多きを加ふる所以である。早い話が大阪を見れば甚だ明かである。家屋が

あんな風に密集してしまつたら、都市はお仕舞である。如何にも金のある人は鳴尾からでも西の宮からでも通へるであらうが、金のない人は厭でもおうでも、あの逼き込んだ町の中に住んで、都市の總ゆる害毒を蒙らなければならぬ。大阪には總ゆる犯罪が行はれて、病人や死亡率の多いのは少しも不思議ではない。

併し斯くの如きは獨り大阪許りでなく、大都市と云ふ大都市は大阪と同様な運命を持つて居る。何となれば皆都市集中を悦んで、百萬の都市は之を二百萬となし、二百萬の都市は之を四百萬にしようとして居るのみならず、狭い處に人間を押込んで更に之を積み重ねることを以て、經濟的だと考へて居るからである。若し其の運命に委して置いたならば、今に臍を嚙むの悔みを見るであらう。

されば私共の目から觀れば、大都市の周圍には田園サブープを作つて、此等の弊害を除きたいものであると思ふけれども、叙上の如く労働者なんかは、アパートメント

に收容する方が宜いと云ふ位なれば、吾人の理想する田園サブープは迎もく／＼出来る筈がない。縱令之を作らうとしても、日本に於ては非常に困難な事情がある。

西洋では郊外の土地は非常に安いけれども、日本に於ては目玉の飛び出る程高いのである。何故高いかと云へば全く土地投機の結果である。米や野菜を植えて置けば、一反歩に付三十圓乃至五十圓の小作料を得るに過ぎないので、之から還元すれば三百圓乃至五百圓しか價值のない土地が、五六千圓は愚か、二三萬圓もすると云ふ有様、こんな高い土地にどうして低廉なる田園住宅を供給することが出来やうか。

されば人間として人間らしい生活を営ましむる爲めには、矢張りホワード氏に従つて別に都市を築造するより外はないと信するのである。此の見地から英國に於けるが如く、大都市を離れて別に田園都市を造ることが、出来るならば極めて便利であるが、日本に於ては中々容易でない。日本では三百町歩とか五百町歩とかの土地を纏めて購

入することは殆んど不可能である。而して現行法規に於ては市の計畫を離れて土地收用も出来ない、縦令出来る様になつても、西洋と異り土地が却々廉くはない。英國に於ては都市を離るれば大方牧場なるが故に、地價が非常に廉いのみならず、新都市の築造に適當なる場所が澤山あるが、日本では集約的に耕されてゐる田地か畑地である。而して其の價は縦令思惑が餘り入つて居らぬにしても、決して廉くはない。田であつたら、一反歩七八百圓乃至一千圓もする、畑でも五六百圓を拂はねばならぬ。其處に相當の都市的設備をなせば随分高いものになるのである。

故に日本に於ては田園都市を造るにしても、事實容易の事業ではない。唯々庭園を有する住宅地を設ける位が關の山にて、本統に自然に接近して農工の結合を計り、工業の疲勞を農園趣味にて慰藉しやうと云ふやうな、根本計畫は逆も思ひも寄らぬことである。故に日本に於ては這種の計畫に従つて、各人平等に人間らしい生活を營まう

とすれば、山林都市を造るより外之れなきことと思ふ。

元來日本人は自然の渴仰者であり、山林の讚美者であつたのだが、近來西洋文明に接して物質文化の威力を見るに及び、驚異を以て之を迎へ、其の下に蟠る悲慘と罪惡とを辨へず、切りに其所産たる大都市を謳歌したり、憧憬したりして居る傾がある。實に我國民は此の物質文化に憧がれて大都市に迷ひ來ては、目を丸くして丸ビルや三越を眺め、驚嘆以て銀座や淺草を見、所謂文化生活なるものは大都市の高層建物や自動車やカフェーやキネマに在るものゝ様に思ひ、黄塵萬丈の中にあつてもケバ／＼しい厚化粧に魅せられて帝都の燦爛を讚美したり、下宿の三疊に籠居しても五色の酒に陶醉して、大都市の繁華を謳歌したりして、今に神身を糜爛して警察費や監獄費の増加を餘儀なくするのを忘れて居る。殊に大都市に生れたものは神経が痲痺して都市生活の不安を感じる事が薄いのみならず、一種のキザな自負心を以て矢鱈に大都市に

愛着する癖があつて、借間をしてゐても歌右衛門や雁次郎に熱心したり、裏棚の薄暗い陋屋に住んでも、矢つ張り東京が愉快だとか、大阪が便利だと云つて愛兒愛妻が絶えず危険に曝らされて居ることを知らないのである。

乍去段々教育が進んで各自の理想も自ら高くなり、浅草や道頓堀のどんちゃんよりも純真な美と清とを渴仰し、カフェーや待合の肉的快乐よりも、家庭の心的快樂を要求し、眞に人間としての日常生活に覺醒して來たならば、改良し難き日本の都市生活には愛想の盡くるときが來るであらう。陶淵明でなくとも必ずや歸去來を諷つて田園に歸臥したいと思ふであらう。之れは大都市生活が吾人をスポイルする爲のみではなく、天然自然を愛好する吾人の傳統は一時の誘惑に依つて決して失はれるものでないからである。

日本の某階級の人には支那人の様に日光や空地に就いて無頓着であるのみならず、

暗い家でなければ金が儲からぬと云つて、態々家屋を不衛生となし、粥を啜つても金儲が第一、義理を缺かうが、耻を搔かうが、お金が大事、金は生命、成金を以て立志編中の偉人と謳歌したり、金儲は人生の目的と信じて居る人もないではないが、斯くの如きは日本人の本性ではない。日本人は九尺二間に蟄居して居つても一輪挿の花卉に天地の微笑を見て慰んで居り、一坪に足らぬ空地にも躑躅や南天を植込んで自然の生命を見て楽しんで居り、若し出来るなら、相當の庭園も持ち度い、餘裕にあらば山水の眺も得度いと思ふ心は、何人にも潜んで居ると私は信するのである。

乍去一旦教育せられて文化を味つた者は、在來の農夫や樵夫の様に單に土を掘ちくつたり、木を切つたりすることのみを以て満足出来ない。矢張り他面に於ては都市特有の文化施設を要求するのである。されば農村は都市的に設備し都市は農村的に調理して都市の田園化と共に農村の都市化をなすことは、社會上最も必要なことであるが、

從來だらしなく出来上つたものを繕ふことは容易のことでないのみならず、日本の都市計畫は小都市の改良や農村の都市化を豫想して居らないので、我々の理想の實現には甚だ不便である。

縦令都市計畫法が此等の小都市や農村にまで適用せられることとなつても、日本の小都市や農村には因循な消極思想が漲つてゐるのみならず、明治以後馴致せられた忌まはしき無理解な黨争心さへも加つてゐるので、之を改良して文化的な明るい都市にまで造り上げやうとすることは前途遼遠の傾もある。

されば我々の理想を實現するには別に新らしい町、即ち理想都市を造るより外ないのである。之れが爲めに英國に於けるが如く、容易に田園都市を築造することが出来るならば甚だ結構であるが、之は叙上の通り平地に於ては土地が貴い爲め、所謂田園都市を築くことは頗る困難なるが故に、寧ろ山林を開拓して、理想都市を作つた方

が得策であらうと思ふ。

日本に於ては目下山林を利用して國立公園を設立しやうと云ふ説が喧しく宣傳せられて居る。米國の如くミリオナーの多い國には、這種の貴族的計畫も或は必要かもしれないが、日本に於ては此くの如き計畫よりも、山林都市の開拓が緊要であらうと思ふ。上高地にヨセミテが出来、十和田湖にイエロウストーンが出来ても、我々貧乏人は其の恩典に浴することが出来ない、我々は兎も角としても、之れに依りて一日の歡を樂しみ得る人は果して幾人あるであらう。併し之れも特殊の人には必要であるかも知れず、解し様に依りては一種の文化運動かも知れないのみならず、兎も角一種の自然復歸の運動なれば無いよりは有つた方が宜からうけれども、苟も社會全般の利害に顧れば、ヴァニテイや特殊階級の爲めの國立公園を設けるよりも、民衆の爲めの山林都市を建設する方が緊急であらうと思ふ。

我國は他國に比すれば平地が極めて尠い爲めに、日本人は土地を惜んで生活に必要な土地さへも儉約しやうとして居るが、其の代り日本には山林は澤山ある。全面積の約七割は山林と云つても宜しいのである。之を有効に利用して文化を移入すると共に、人間生活の好適地となすことが刻下の急務ではないであらうか。

平地は叙上の如く尠い爲めに、其の價は非常に高いけれども、山林は之れに反して極めて豊富であるが爲めに一括して廣い地面を得るに便利なるのみならず、其の價も亦甚だ低廉である。加ふるに山林に於ては風景も佳く、自然の聲色を味ひ得る所が頗る多く、其處には谷の戸出づる鶯の美しき聲も聞え、緑り色濃き森の茂りも見られ、其處には又唐紅につゞられた紅葉の錦も眺められ、涓々たる清き水の流れの音も聞えるのである。此處に都市敷地を需むることは經濟的でもあり、衛生的でもあり、文化と自然とを樂しむ上に於ても最も得策であらうかと思ふ。

然るに論者或は日本の山林は丘陵ではなく、多くは山岳の急傾斜地に在るので、都市を作るには不便であると云ふかも知れない。實に山間に於ては都市を作ることに便利ではないけれども、古代都市は多く山上にあつたのである。希臘のアクロポリスと云ふのは山上の都を意味するのである。北歐のブルグも同様の意味を持つて居ると云はれて居る。近來に於ては生活よりも産業に重きを置く處から斯様な都市は少いけれども、印度其の他の熱帯地に於てはサナトリウムとか「夏の都」^{サマータリウム}と云つて、高い山上にすら都市を築造して居るのである。

我國に於ても昔は朝日の輝くところ、夕日のたゞさす所の山の上に都を定められたものだと思はれて居り、近代に於ても温泉場の如きは山間に築かれてある。其の温泉場は殆んど都市計畫的の注意を拂つてゐない爲めに、山間都市としては一向に價値はないけれども、若し之れをランヅケイブ・アーキテクトの手を借りてロマンティシズ

ムに従つて、うまく街路や家屋を配置したならば、平地都市よりも却つて趣ある都市を築造することが出来るであらうと思ふ。

元來都市の食料は工業であるが、山林に於ては工業の動力を得ることが極めて容易である。日本在來の都市は概して石炭を得ることが容易でない。假令得らるゝにしても其の價格が不廉である。假令今は不廉でないにしても將來は騰貴するのみならず、今に拂底するに違ひない。今日の採炭増加率で行けば七十五億の炭量は百年も經たぬ内に盡きてしまふ。將來の動力は可成石炭を節約して水力に依らねばならぬ。水力の淵源は山林である。其處には電力にコンヴァートするまでもなく豊富な動力を得る事が出来る。

之に依りて林産物を原料とする工業は勿論、生糸や絹織物や時計や細貨物等の製造工業を起せば、其の都市を養ふ丈けの要素は立派に備はることと思ふ。更に之を電力

に變形すれば電燈も點けられ、電車も廻され、ケーブルカーも動かされ、谷間々々に電力の分配も出來、非常に便利な譯である。されば山林を利用して私の所謂山林都市を建設することはいづれの方面から見ても有利なことと思はれる。

然らば私の所謂山林都市とは如何なるものであるかと云へば、卷頭大意に掲げてある様に、田園都市の精神に基いて、山間又は林間に建設せられる一つの理想都市を云ふのである。之を詳しく説明するには先づ以て田園都市なるものはどんなものであるかを説明した方が捷徑であるのみならず、我國に於ては此の田園都市を誤解して居る者も澤山あるから一應之を略叙するの要がある。

此の田園都市は之を細説すれば可なり長くなるから、私は唯其の簡單なる信條を述べて、之れに多少の説明を加へるに止めて置きたいと思ふ。然らば其の信條は如何なるものであるかと云へば左の如きものである。

"A Garden City is a Town; designed for healthy living and industry; of a size that makes possible a full measure of social life, but not large; surrounded by a rural belt; the whole of the land being in public ownership, or, held in trust for the Community."

之を譯せば、

「田園都市は一つの都市で、其の都市は市民をして衛生的に生活せしめ、衛生的に産業を営ましめんが爲に計畫せられたもので、社會生活に必要な各種の機關を具備するに適當なる地積を有するもので、然かも廣大ならざるもので、其の周圍は農業地帯を以て圍繞するもので、其の土地の全部は市民の共有なるか、將た其の市民の爲に設けられた信託會社の所有に屬するものである。」

之で田園都市の意義が大體判明する譯であるが、尙之を明白ならしめる爲め、左に多少の説明を試みたいと思ふ。

田園都市と云ふものは一つの都市であつて、其處には市役所もあり、學校もあり、工場もあり、商店もあり、農園もあつて、自ら支持し得る一つの纏まつた完全な共同團體なのである。住宅許りで他の都市的機關を持たぬものは、完全な公共團體ではない。従つて田園都市とは稱すべからざるものである。縱令其處に住宅があり、商店があり、工場があつても、何等の結合がなく所謂吳越同舟で、旅人の寄合世帯の様なものでは眞の田園都市ではない。眞の都市は最も純なる社會で、各人分業を以て互に相助け、互に相樂しむ所の大きな家庭でなければならぬ。田園都市は實に此の理想を以て生れたもので、其處には都市としての各種の文化機關があつて、共同の目的の爲めに其機能を完全に働かさうとする一つの團體である。

而して其の都市は主として如何なる趣意に依りて計畫せられたものであるかと云ふに、第一に衛生的でなければならぬ、第二には産業的でなければならぬと云ふ見地から計畫せられたものである。人間をして生存の價値を發揮せしめ、都市生活をして最も有意義ならしめる爲には、先づ以て健康を保全して活動力を養ひ、能く能率を増進せしめて各種の方面に活動する素地を作らねばならぬことは勿論である。其れで田園都市は最も衛生的なる住宅を供給することを目的として居る。其處には充分なる空地を與へて、新鮮なる空氣と輝々たる日光とを供給する様にして居る。

乍去人間は生活の資源がなくては生きて居れない。其故に交通に最も便利なる部分を割愛して工業地域となし、其處に各種の工業を営ましめ様として居る。工業のない都市は片輪であつて完全なる都市ではない。田園都市は片輪の都市たることを欲しないのみならず、其の工業を最も有效的に働かさうとして居る。而して其の都市には社

會生活をなすに必要な機關は總て具有して居るので、無論其處には學校も公園も運動場も水道も下水も市場も雜貨店も金物屋も唐物屋も洗濯屋もなければならぬことになつて居るが、併し其の都市は餘り大きいことを欲しない。何となれば都市は大きくなればなるほど不純になつて團結力が弱くなり所謂善隣とかフレンドシップとかブラザーフッドと云ふものはなくなつてしまひ、今日は東區に居るかと思へば明日は西區の人となり、旅の耻は搔き捨てと云ふ考へで市を愛するどころか、何をしても構はぬと云ふ氣になり、自治とか郷黨とか云ふ觀念は皆目なくなつて、タマニイ黨の爲すが儘になつてしまふ。

加之都市が大きくなればなる程、悪人や背社會的人間が入り込んで貧民窟が所々方々に出來て、不衛生となり、不安全となり、不經濟となり、戦々競々として生活しなければならぬ。

田園都市は實に斯くの如き不安全な、不健全な不經濟な都市生活を欲しないが故に、其の人口は三萬か五萬位の程度に止め度いと云ふ希望を有つて居る。面積にしても餘り廣くて郊外の景色が減多に見られない様な廣さでは宜しくない。一寸足を運べば郊外の廣々とした自然の景色や、田園の趣味をも味ひ得る位の廣さでなければならぬとせられて居る。而して市街の周圍は農業地帯を巡らすことになつて居るが、其の農業地帯は二つの役目を有つて居るのである。其に一は之を市民に貸付けて農耕に親んで自ら新鮮なる食物を得せしめると共に、農と工とを結合したいと云ふ希望である。其の二は之を以て都市の限界にしやうと云ふのである。

元來、都市の外圍に限界がなく、次ぎ／＼に家屋が増加して何處から何處まで自個の都市であるか分らぬ様になることは、都市の個性を亡くして、自ら自治の精神も愛都心をも失ふ基で、甚だ好ましくないことである。其れで自個の屋敷に垣根を廻はす

如く、都市にもちやんと境界を明瞭にして置くの必要があるので、田園都市に於ては農業地帯を以て其の境界を明かにしようとして居るのである。而して田園都市に於ては其の土地は個人の私有を許さない。土地だけは市民の共有にするか、將た市民の爲に設けられた一信託會社の所有にして置き、地代其他の収入は一定率以外は配當を許さず、若し利益があつたら總て之を都市の改良費を還元すると云ふのが田園都市の信條であつて、現にレツチオーズでもエルケンでも信託會社の土地になつて居る。

山林都市も亦此の信條に従つて建設せらるべきものと思つて居るが、唯々少しく異つて居るのは、山林都市は必ずしも農業地帯を要しないことである。併し、山林都市は農業地帯の代りに是非とも山林地帯を以て圍繞すべきもので、工業と林業との結合を庶幾して居るものである。其の生活の様式は大體に於て、古代の希臘都市を理想として居るものでなければならず、其の政治は近代都市の様に争鬭的でなく、中世都市

の如く宗教的であるか、將た市民一同の幸福を基礎とする徳政主義でなければならぬ。而して其處に經營せらるべき工業も、ポルトサンライトの石鹼工場やボンヰキールのチョコレート工場の様にバターナリズムであるか、將た協働主義に立脚したものでなければならぬことは勿論である。商業としても搾取的のものではなく、昔の都市に於けるが如く、生産や消費に密接して、其の間の調和を助くるものでなければならぬが、殊に工業は個人的營利を主とするものではなく、社會奉仕を念として總ての協調を保ち、楽しく働いて美しく生活するものでなければならぬと思つて居る。

山林都市は實に叙上の如き使命を持つてゐるものであるが、併し外界との交通が不便であつては成立しない。それ故山林都市の敷地は鐵道又は軌道の沿線を選ぶか、將た舟楫の便ある海邊に需むるの要あることは勿論である。若し其の敷地が舟楫の便ある海邊に需むることが出来るならば、其の工業は輕量品に限らず、重量品の製造にも

適し、非常に便利な譯である。

要するに這種の交通機關を有する所、又は有し得べき所に敷地を選び、相當の土地を求むることが必要である。其の面積は一千五百町歩乃至二千町歩もあれば結構である。英國の模範的田園都市たるエルキンは九百七十二町歩で、レツチローズは一千八百町歩であるが、山林都市は田園都市よりも稍廣きを要することと思ふ。

斯くの如くにして土地を得たならば、最も合理的に都市計畫をなさなければならぬは勿論である。之れが爲めには先づ以て基礎調査を行ひたる後、各地區の狀勢に鑑みて第一着に都市的^{シツチウケシター}中心を設定しなければならぬ。此の都市的中心は、ヰキトルヰキアスの云つた様に、其の中心機關とも稱すべき市役所や、市會議事堂の設置を要するとは勿論であるが、其の他に、一般市民が何時にても集合を催したり、集合したりする公會堂がなければならぬ。其の公會堂は、今日の所謂公會堂の如く演說會や、講演

會や、演藝會場に充てられる許りでなく、雨天公園の役目をも勤めねばならぬ。日本の從來の都市は個人個人の烏合に過ぎないので、社交機關は、農村よりも缺乏して、本當に都市的機能を發揮することが出来ないが、將來の都市はこんな事では無意義である。

都市は各種の人間に社會化の機會を與へることに依りて、文化を助け都市其物の存在を有意義にする譯なれば、這種の公會堂は都市にとりて最も必要なものと思ふ。之は今日の如く特種階級の占有物であつてはならぬ。一般市民のものでなければならぬことは勿論である。一度町に出で、買物なり、散歩なりした人は一寸其の公會堂に立寄り、多くの人に會合する機會を作ることには甚だ肝要である。其處には無論音樂堂もなければならぬ。フロイトもなければならぬ。喫茶其の他のレフレッシユの設備もあれば尙更結構である。何人でも多勢の間に座を占めて音樂を聴き乍ら、知己と談笑する

機會を得ることは、個人として愉快であるのみならず、社會人としては、其の性格を研磨して文化を向上する所以の第一要件である。

斯くの如くして其の中心を設定して都市としての精神を明かにすることは最も大切なことであるが、其の次には各地方地方に副中心を設定して其の地方々の社會的並に經濟的活動に資すべく考慮すると共に各種地域の設定に就き深甚の考慮を拂はなければならぬ。殊に工業地域に就きては一層の注意を必要とする。何となれば山林都市は地形上原則として平地を得ること難く、従て工場適地を求むること困難なる事情あればである。されば他地方との交通に最も便利なる地域即ち山間であつたならば、停車場附近、海岸であつたならば波止場附近に工業地域を設け、引込線を設くるなり、運河を掘るなりして、其處に前記の工業を纏めることも亦甚だ肝要である。而して其の工場を科學的に配置して、住宅の不經濟な混在を許さぬ様にすれば其の面積は幾ら

も要らないのである。其の面積は普通の都市に於てすら、總面積の十分の一もあれば澤山であるとせられて居るので、田園都市や山林都市に於ては百分の五も要らない位である。

日本の都市は如何に商工業の玩弄物なればとて、其の工業地域として其の面積の二割以上三割も割愛しやうとして居るのは誠に遺憾なことである。之れは統制なき自由制度の不安と不経済とを暴露した一種のデレンマにて、地主は高く賣らんとして使用制限の最も少い工業地域の廣きを希ひ、工業家は安く買はんとして價格の獨占を避くる爲め、同地域の廣きを望む結果であらうが、之れが爲めに迷惑を受くるものは一般消費者、殊に同地域住民である。若し夫れ營利經濟から離れて厚生經濟の見地に立脚し苟も人間の幸福や生産の能率を科學的に研究したならば、恐らく之れ程馬鹿らしいことはあるまいと思ふ。

田園都市や山林都市に於ては、衛生的に生活すべき住居地域と、能率的に働くべき工業地域とは劃然と區別して、互に其の職分を犯さぬこととなつて居るのみならず、其工業地域は工業の爲めに特別の施設を施して、其の能率を擧げさすことになつて居り、然かも其の地價は施設費が加はる丈けで、思惑の爲めに釣上げられる懸念は少しもないので、矢鱈に其の地域の擴張を要しない。之れは田園都市や山林都市の特徴で、其の土地は必ず市民の共有か、將た信託會社の所有になつてゐる爲めに、私有に基く無益の思惑や其他の不経済から免れて、低廉に生活を創造し得ると共に、低廉に貨物を生産し得る所以である。

斯くて都市的中心と工業地域とが設定せられたならば、其の中心と乗客停車場即ち交通上の中心と云ふべき地點との間、又は工業地域との間は之を商業地域となすを便利とする。其の面積は全面積の百分の一も要らぬ。千分の五もあつたら澤山である。

元來都市なるものは支那の都市や我關西都市の如く商店、家屋を以て充たされては堪まつたものではない。商業の如き中間搾取機關は可成少きを可とする。殊に山林都市は協働主義に立脚したもので、其處には整頓した消費組合もあり、工業があつても Elimination of Middleman と云ふ標語を掲げて可成中間者を經由しないことを理想とするものでなければならぬので、商業地域と云ふ様な天然と人道とに對する反逆の地域は決して廣きを要しないのである。併し其處には是非とも消費組合のストアがなければならぬ。而して市民一般の需用する必要品は必ずや其處で調へられる様にしなければならぬ。

其處には又デパートメント、ストアやバザアの設備もなくてはならぬ。但し此等は各階級の需要を充たすものでなければならぬ。日本の百貨店は概して貴族的のものであつて民衆的でない嫌ひがある。斯くの如きも流行の中心として都市の一角には必要

でないことはないが、今少し民衆的のものもなくてはならぬ。其の他に各種の商店を要することは勿論であるが、交通運輸に關する商業は貨物停車場附近に纏めねばならぬ。小賣商店と雜居することは甚だ好ましくない。

山林都市には別に「ビジネススクォーター」と稱すべき事務所専用の地區は要しないのみならず、事務所風の店舗は他の小賣店と混在することも甚だ好ましくない。菓子屋の隣が保險會社で、唐物屋の隣りが銀行で、小間物屋の隣は會社の事務所だと云ふことは、町の體裁も悪いのみならず、非常に不經濟である。不規律は不經濟の基であればである。故に一階は原則として小賣店舗に用ひ、事務所は可成二階以上に上げる方が宜しからうと思ふ。

商業地域の中には又娛樂の中心を置かねばならぬ。其處には劇場や、活動寫眞館や寄席其の他の觀物場を設くるの要あることは論を俟たない。乍去這種の興行は在來式

の如く餘りに營利^{コンマアシアライズ}化した俗悪のものは好ましくないのみならず、却つて有害である。營利と文化とは没交渉の場合が多い。娛樂の如き重要なものを營利を目的とする興行者に委したと云ふことは大なる間違であつて、先進國の都市改造者の後悔して居る所である。故に山林都市の興行物は文化や教化を旨としたものでなくてはならぬ。市民の素人芝居^{アマチュア}や演藝會等を社會化して一般市民に觀せることなどは最も歓迎する所である。

元來人間は一種の向光動物であるが故に晚餐後散歩をするにも餘り暗い處や寂しい處を好まない。可成明くて賑やかな處を選ぶのである。故に山林都市に於ても是非とも斯くの如き場所を要する。商業地域は買物や見物の爲めのみならず、夕刻の散歩の爲めにも相當の設備を要することと思ふ。バーなどは必要ないかも知れないが、最も平民的な喫茶店を設けて音楽を聞き乍ら茶やラムネ位を飲み、晝の疲れを回復する場

所も必要であらうと思ふ。

而して其の周圍は大體に於て住居地域となさねばならぬが、谷間谷間に副中心を置き其處には是非とも消費組合の支部もなければならず、魚菜を販賣する市場をも配置しなければならぬ。其の市場はブローカーの集會所ではなく、市民と農民との直接交換所でなければならぬ。其處には又同方面の集會に充つべき俱樂部位はなくてはならぬ。スケートリンクの様な室内運動場も欲しいものである。

中心と割中心とを連絡する主要道路は地形にして許すならば、其の兩側に限り商業地域として小賣店を並べて其の街路に明るみを與へることも無用ではない。併し之を商業地域とするならば其の間に住宅は介在しない様しなければならぬ。法律に於ては住宅と商店と混在することは禁じてないけれども、之は決して宜しいことではない。何事も科學的に且つ經濟的に處理するには整格^{コオルデナート}することが最も必要である。住居地

域の中に住宅の散在することは互に其の効果を妨ぐる所以で宜しくはない。

而して其の外廓の住居地域の中には文化を目的とする中心がなければならぬ。其處には是非とも圖書館がなくてはならない。若し市の財力が許すならば博物館や、藝術館等も欲しいものである。其の藝術館に於ては大家の貴族的作品を蒐集することも必要ではないが、要は民衆的藝術を推奨する所のものでなければならぬ。此の藝術館は一般市民が閑暇時を利用して創造した作品を出陳して藝術趣味の一般的向上を期する方法を講すべきものと思ふ。市として一つしかない學校は矢張り其處に纏めた方が便宜であらう。五萬程度の都市としては縦令大學は持てなくとも少くとも高等學校程度の教育施設はなければならぬ。山林都市の如きは特に文化を中心として建設せられなければならぬので、這種の學校は是非ともなくてはならぬ。

小學校や成人學校や運動場は適當の距離を保つて所々に配置せられなければならぬ。

い。人口五萬とすれば就學兒童は大凡そ一萬位はあるものと見なければならぬ。さすれば小學校は少くとも十は必要である。市民は此の學校を中心として青年の教化に努めたり、高尚な娛樂を推奨したり、各種の組合を組織して諸種の社會運動をなすべきことと思ふ。運動場も同一の意義を以て各地に配置せられなければならぬことは勿論であるが、全市的の大運動場は谷間の窪地を利用して全市民が擧つて觀覽し得る様に計畫せられなければならぬ。從來の運動場は多く運動者本位に設計せられて觀覽席なるものは特種の人にのみ與へられて、民衆的でもなく社會的でもないのみならず、運動場其の物の社會的效果を無視してゐる傾きがあるけれども、山林都市に於ては這種の計畫は許さるべきでない。之れに反して最小の運動場は各住宅の裏地を利用して之れに充て一面、幼兒の爲めの遊戯場となすと同時に隣保^{ニイボウ}中心として昔の町内組合の敦厚なる親交關係を回復する様にしなければならぬ。

而して雅典がアテナの神殿を持つたが如く、羅馬がヂュピターを持つたが如く、將た我國の各農村が鎮守を持つてゐるが如く、我山林都市にも適當の位置を選定して守護神を安置すべきである。其の位置は市の中央から眺望し得べき高丘であつて然かも全市を瞰下し得べき所でなければならぬ。若し這種の地點が四つあるならば天照大神の外に世界の三聖を祭祀することも甚だ必要である。基督でも釋迦でも孔子でも高遠なる理想を以て人類を導いてゐる大なる人格者であつて、何人と雖も之を崇敬して人格の向上を期すべきものと思へばである。

實に我々の祖先は神を畏敬すると同時に、神と共に樂むの慣習を持つてゐた。宗教心の旺盛であつた中世都市の市民も矢張りさう云ふ風であつたが、此の習慣は是非とも回復しなければならぬ。山林都市の市民は宜しく此等の宮殿や神殿を中心として社會生活を營み、市民としての年中行事は此等の神苑に於て樂しく美しく行ふべきこと



と思ふ。

而して最も恰好な谷間を利用しては其處に野外集會場を造ることも必要である。之を野外劇場や野外競技場に充つれば至極結構であらうと思ふ。山林都市に於ては四圍が悉く公園的になつて居るので、特に公園を設くるの必要はない位であるが、併し天然自然も人工と相俟つて一層其の美觀を發揮すべきが故に、山林を開拓しては所々に公園的施設を施すの要あることは勿論である。若し平地にして充分ならば其處に整形的インフォーマルな公園を造り不整形インフォーマルの美觀に對しコントラストを與へることも必ずしも不必要ではない。

斯くの如くにして都市の周圍に四季の名所を設定することは最も必要である。大都市に於ては春が來ても梅一つ見る機會がなく、曾て市民に愛觀せられた臥龍梅も空しく煤烟の爲めに屠られてしまい、稀に梅林とか梅屋敷なるものがあつても遊蕩兒を誘

つて金儲の機会を得やうとするものに過ぎないので、心の荒み行くのも無理からぬことであるが、山林都市は人間と天然とを近接せしむるを以て目的とするものなるが故に、其處には各個人の庭園以外に公衆の接近し得る梅花園もなければならず、桃園もなければならぬ。而して其處には櫻の名所は勿論のこと、菖蒲や藤の名所もなければならぬ。其處には屋形を浮ぶべき大きな河はないにしても螢狩や夕涼みに適する水の名所もなければならぬ。秋の紅葉は自らなる賜にて殊更設定を待つまでもあるまいが、菊花や萩の名所はなくてはならぬことと思ふ。

而して住居地域に於ては地形に應じ合理的の宅地割をなし、其處に宅地に相當する住宅を設けしめねばならぬ。此の場合に於ても、コイデホーレション整格が必要である。之は街路に美觀を添へる一方法ともなるのである。地區に依りて一定面積に建築すべき家屋の一定數を定め、家屋の大小並に建築の體裁を整へねばならぬ。而して社會的交際を密接な

らしめんが爲め、可成社會的階層を纏むるの要がある。之れは資本主義的差別觀からでなく、趣味を基礎とせざる親交は薄弱であるからである。而してレツチアーズやエルキンに於けるが如く工場に通ふ人の爲めには工場に接近する住居地域を割愛しなければならぬことは勿論である。

住宅の敷地は六十坪を最小とし百坪を標準としなければなるまいと思ふ。而して空地の面積は建物面積の二倍を最小とし三倍を標準としなければならぬ。其の空地に於ては各々庭園を造りて花卉を楽しむなり、野菜を作りて新鮮の食糧を得ると共に天然に近づいて土壤に親しむ様になければならぬ。

而して住居地域の周圍に相當の平地か緩傾斜地があるならば、英國式田園都市の様に其處に農業地帯を設定することが最も理想的である。若し如此農業地帯が得られるならばボンヰキールやレツチアーズに於けるが如く、之を市民に貸付けて農耕趣味を

養ふの必要がある。乍去日本の山間地方に於ては平地も緩傾斜地も割合に少いので、如此農業地帯を設定するの餘裕はないかも知れぬ。宅地割を犠牲に供してまで農業地帯を設くるの必要はない。又急傾斜地を耕作することは國土保存上好ましくからざるが故に強ひて農業地帯を求むるの要はない。何となれば農産物は山林都市の精神に従つて都市と農村との協調を能く保ちさへすれば之を得るに難くはないからである。

併し其の代り山林都市の外廓には是非とも山林地帯を設定して山林の經營を樂しましむる様にしなければならぬ。地形の如何に依りては果樹の栽培の如きは最も獎勵すべきである。又日本としては山地を利用して食物を得ることが最も必要なるが故に其處に薇、蕨、筍、茸、葛、片栗、山芋等を作るのも必要である。

兎にも角にも工場や事務所より歸宅すれば、鋤を採りて土地を耕したり、花卉や菜果を培養したりするのみならず、山に薪を拾つたり、林に茸を採つたりして天然と交

つて、工業や事務の疲労を醫すると共に、山や川の慰藉を受けさせたならば労働争議の如きは起るべき筈もなく、勞力の能率も自ら増進して工業の發展も如何に多大であらうかと思ふ。

斯くの如き配置は悉く適當の歩行距離の範圍内に於てするを原則としなければならぬ。而して市内には電車の如き不經濟なものを要しない様になければならぬ。世には市内電車を有することを以て名譽と考へて居るものもあるが、之れはとんでもない間違ひである。都市が不經濟な電車を要する所以のものは都市の不秩序を證明するもので、總ての配置が科學的に整列せられたならば、斯くの如き危險物は必要がないのである。總てが適當の歩行距離に配置せられて、日々工場に通ふにも事務所に行くにも十五分か二十分位外氣を呼吸して、歩いて行く様にしたならば、衝突の虞もなく病氣傳染の憂もなく、衛生的で且つ經濟的な譯である。

而して其處に建てらるべき建物は從來の日本都市に於けるが如く雑駁なものでは甚だ困る。不^{ドイツアーカイ}同は進歩の母と云ふけれども、意義なき不同は却つて進歩を妨げ美觀を損ずるのみならず、頗る不經濟である。其中特殊建物は一定の規定を超えて之を羈束することは甚だ面白くないけれども、普通の住宅や商店は格を整へて等級毎に標準を設け、之を^{スケッチガイド}準據せしめねばならぬ。銘々思ひ思ひに建築するときは費用が嵩む許りで決して近代的ではない。昔の様に餘裕を以て家屋を建てた時代は個人的趣味に基いて、勝手に設計して建て、も文句はなく、やれ石撞きだ、やれ棟上げだと云つて一生一代の祝儀の様に大騒ぎして無駄に金を使つても構まつたことはなく、今日に於ても富豪階級は昔の様に勝手に數奇を凝らしても、差問へはなからうけれども、家屋の多大數は人間生活の必需品であつて贅澤品ではない。如何なる貧民と雖も家族五人あれば十坪の居室は要るのである。之れに臺所其の他の附屬室を加ふれば十五六坪

は何んとしても必要である。此の坪數は文化も向上も意味しない最小限度なので、苟も人間をして意義ある生活を営ましめんとするならば少くとも二十坪は必要であらうと思ふ。

更に人間として人間らしい生活をなすには、一人に付三坪乃至四坪は必要なのである。而して家族として生活するには其の數に依りて所要室數に於て多少の差異ある譯であるが、それにしても是非とも必要室數は自ら決定して居る譯である。實に家庭としては茶の間、食堂、客間、書齋等の爲めに何んと儉約しても二室は要する。其の外に夫婦限りの家族ならば寢室として更に一室を要する。子供があれば二室を要し、更に舅姑があれば三室を要し、其の上^{スペース}空室が今一室あれば誠に好都合である。兎も角勞働者であらうが俸給生活者であらうが、人間が人間として人間相當の家庭を作り、人間として意義ある生活をなさんとすれば五六室は必要であると認められて居る。ポ

トサンライトやボンヴキールの職工の宿舍の如きも皆此の標準に従つて作られて居るのである。

各室の面積も區々にては困る。自ら最小限度もあり標準もなければならぬ。西洋に於ては夫々研究せられて居るが、日本に於てもチャンと其の標準を決定すべきである。斯くて其の標準に従つて家屋も機械にて製造すればうんと安く出来るだらうと思ふ。今日の家屋の建築は印度人の寶石細工の様なもので、手にてこつ／＼作られるのみならず、注文主に依りて價が異つて引受け得る最高價格で建てられて居るので、安く出来る筈はない。人間生活の必要物件が猶太人の中古商買ちゅうぎやうや縁日の植木賣買ちゅうぎやうの様に取扱はれては堪まつたものではない。

殊に住宅は同じ必要物件でも食料や衣服などとは趣を異にして、肉體よりも精神に影響を與ふること非常に多く、徳義、品性、趣味の如きは家屋の感化を受くること尠

くはなく、勉強、整理、清潔、經濟的觀念の如きは家屋の構造に依りて一大影響を受け、其の設計が悪ければ勉強も出來ず、整理も付かず、清潔も保てず自然に不衛生不經濟となり、家屋が宜しければ其の精神も自ら教化せられて文化的になることは今更吾人の喋々を俟たぬ所である。

英國皇帝は「市民をして充分なる家屋を持たしめよ。家屋其處には罪惡の種子も病氣の種子も蒔かれぬ、清らかな家屋を持たしめよ」と仰せられたが、苟も市民の休戚を念として其の幸福を想ふならば家庭生活を楽しむに足る丈の充分なる面積を有すると共に衛生的で且つ文化的な家屋を供給することは最も緊要なことである。

家屋は實に斯くの如く人間生活に採りては必要にして且つ重要なものなれば昔の大名家を建て、我々に貸して呉れた。今でも殖民地に於ては官舎制度や社宅制度があつて使用人の爲めに便宜を興へて居るが、山林都市の事業家も須らく此方法を採るべ

きである。さもなければ英國に於けるが如く市民は消費組合や建築組合を設置して市役所と協力して住宅其の他の建築物を建築する様にしなければならぬ。然かも在來の組織でこつ／＼細工をして居つては低廉なる家屋を得ること困難なるが故に、之れは山林都市を經營するものが其の副業として建築事業を營むか、將た特別の建物會社を立て、機械を以て煉瓦其の他の建築材を造り、機械的に家屋を建築せしむるの方法を採らねばならぬことと思ふ。

而して中央區の建物は是非とも耐火構造となし、大體四階層を以て標準としなければならず、其の他の地區に於ても苟も商業地域であつたならば耐火構造でなければならぬが階層は三階位に止むべきである。住居地域の建物も商業地域に接した地區の建物又は長屋建は耐火構造になすべきものである。其の他の地區にありては屋根以外は必ずしも耐火的なるを要しない。山林都市に於ては木造家屋の開放的な特徴も柔か

い風味も味ひ得る様にしなければならぬ。

斯くの如き設想の下に各地區の土地利用法が定まつたならば、街路系統を計畫して街路を築造しなければならぬことは勿論である。從來の自由放任主義の都市計畫に於ては土地利用法も何も定めず、矢鱈に街路を計畫した時代もあり、今日に於ても尙ほ何等の目的なしに用器畫を描くが如き心持にて街路計畫をなしつゝあるものもある様に見受けられるが、之れは目論見なしに家を建て、家が出來てから、座敷や臺所を定める様なものにて飛んでもない間違ひである。

近代的都市計畫に於ては先づ土地利用法を定めて、然る後に街路計畫に取り掛ける原則とする。山林都市に於ては特に其の必要を認めるのである。此の原則を知らぬ人は街路計畫のみを急ぎ、街路計畫が即ち都市計畫だと思つて居る傾きがある。之れ土地の利用は所有者の自由である、街路計畫だけが國家なり公共團體のなすべき事業

であるといふ「レザーフエア」の思想から胚胎したもので、近代の都市生活即ち協同生活の意義を解せない爲めに起つた結果であらうが、斯くては土地の利用計畫と街路計畫とは常に調和せず、不經濟之より甚しいものはない。山林都市に於ては決して斯の如き不調和も不經濟も許さぬのである。

山林都市に於て街路系統を立するには、先づ以て其の地形に基き其の高低に従つて適當の計畫を立てねばならぬ。平地都市の街路を畫する様な態度で立案せられては、折角の天然自然も臺なしである。若し夫れ吾人の所謂山林都市に於て海濱又は谷間に沿ひて多少の平地が得られるならば、其の平地を限り多少の直線道路を配することは悪くはないけれども、四圍の山容や公館の配置を顧みずして、強ひて此の式を徹底せしめて不調和を來たすことは決して宜しくはない。

日本に於て街路と云へば昔から已むを得ざる場合の外は直線に限るものゝ様に考へ

て居るが、之れは都市美や街路美を解せぬ爲めの間違にて決して悦ぶべきことではない。街路なるものは道路と異り、沿道に建築物が建並んで居るものである以上、飽くまで其の眺望を考慮すべきであるが、日本都市の街路は電柱の行列を見る丈にて、些の美觀を與へないので、ツイ街路も道路も同じ様に考へて、所嫌はず直線を使用して居るのは残念なことである。併し工業地域であり、商業地域であるならば、極端に長い直線でない限り直線街路も亦必要であるけれども、單なる格子形や碁碁目式は決して感心出来ないのみならず、山林都市に於ては絶対に禁物である。此の式は最も原始的な式で、支那でも羅馬でも主として此の式を採用したもので都市計畫の技術が進歩しない間は廣く用ひられたものであることは事實である。我國に於ても奈良朝の昔から支那に眞似て此の式を採用し來たり、新たに都市を造るには碁碁目式にあらずんば格子形でなければならぬ様に思つて居るものも少くはなく、而して此の式は土

地の經濟的使用に便なるが爲めに、營利主義的都市計畫に於ては最も能く歓迎せられて此の式が至る處に施行せられて居ると云ふことは寧ろ悲しむべきことである。

此の式は大都市の中心に施行すれば幾分集中を緩和するの效果はあるけれども、さもない場合に於て矢鱈に之を用ゐるは決して褒むべきことでない。故に山林都市に於ては其處に平地があるにしても格子形ではなく、多少の曲線や斜線と結合せしめて文藝復興式に計畫すべきことと思ふ。併し其れも周圍と調和せぬものであつてはならぬ。平地以外は何としても築庭的でなければならぬ。併し其れも整形的ではなく不整形的で自然的でなければならぬ。其の系統は大體高低に従ひ、楓葉の葉脈狀に計畫せられなければならぬが、可成直線を避けて曲線に依り、天然の風致を維持すると同時に繪畫的な曲線街路の價値を發揮せしめなければならぬ。而して傾斜の緩なる場合の外は直角交叉は宜しくない。水の流れの落ち合ふ場合の自然的な有様に鑑みて、

街路の角度をも自然的に定むべきである。斯くの如き計畫は加奈陀のプリンスルーバート港やテンバーヴキレツヂや那威のハマル市の其れに則るべきことと思ふ。而して其の實施に當り可成堀割つたり、切崩したりしない様にしたいものである。假令之を行つても餘り不自然でない様にすると同時に、天然の美形を損はぬ程度に止めることが肝要である。

要するに山林都市の街路系統は能率主義で計畫すべきではない。殊に其の住宅地の其れは寧ろ優暢でなければならぬ。一本の街路を計畫するにも之に沿ひて建てらるべき建築物や生垣の連りを見つゝ、山の姿を眺め得る様に立案すべきである。交通の便利のみを考へて、都市を計畫した時代は最早過ぎ去つてしまつた。之れは十九世紀の功利主義萬能時代のことにて二十世紀以後の都市は人道の上から活^{ツァイタル}動の保存や生活の安全や感情の向上と云ふ所から計畫せられなければならない。殊に山林都市の

如きは之を主要の目的としなければならぬので、交通の便利の如きは二次である。而して山間に於ては原則として中央に溪川が流れて居るであらうが、若し之に沿ひて街路が開かれるものとすれば、主要街路に限り複線式を採つて、溪川の一方に主要の街路があるならば、他方に於ても之れと同格の街路があつた方が宜しからうと思ふ。而して其の二街路が谷間谷間の副中心に於て會合する様に花輪狀に計畫したら宜しからうと思ふ。之れも地形を顧慮せずには強いてやることは宜しくないが、若し出来るものならシムメトリックと云ふよりも寧ろ陰と陽とが具合よく配合せられた方が氣持が宜しいのみならず、萬事都合好くはないかと思ふ。若し夫れ斯くの如く市民の多く集合する所から複線式を採つたならば、交通を整理する上に於ても便利であり、混雑と單調からも免れることが出来る。

人口が幾萬あつて主要街路が單線の場合は、市街が單調で薄つぺらな様に感ぜられ

る。而して多くの場合は路幅が郊外も市中も同一な爲めに時として非常に混雑を來たすのみならず、連日往復する者に採りては退屈を覺へしむることが多いのである。町に出ても同じ道を往復することは氣の利かぬ一つであり、散歩に出ても同じ道を逆戻りすることは愉快を冷却する傾がある。今日の學問は何んでも心理學的色彩を帯びて來たが、都市計畫の如きも之れを考慮せずには、完全に出来るものでなからうと思ふ。殊に山林都市を造るには街路を計畫するにも能く人間の心理を基礎として計畫しなければならぬことと思ふ。

二等三等の街路は此の主要街路より葉脈狀に分岐せしめて夫れ夫れ連絡する様にしなければならぬが、之れは地形や高低に應じ、千差萬別でなければならぬ。其れにしても各街路は孰れも車の通れる様に緩勾配にしなければならぬことは勿論である。併し之れが爲めに迂路を辿らねばならぬことが多いのは已むを得ない。之を防ぐには所

所に細い階段道路を造りて上下道の連絡を講ずることも不必要ではない。

而して市街地の外廓に在る山林地帯に於ては全體を週遊し得る様に是非とも輪環街路を設けなければならぬ。之れも内輪と外輪と二重なれば一番宜しいだらうと思ふ。

此等の街路は山林都市に相當する標準を定めなければならぬことは勿論である。街路は山林都市に於ても原則として歩道車道の區別はなくてはならぬ。車道は主要街路に在りては片側三線を單位とし全體にて六線としなければなるまいと思ふ。速力の等しからざる車輛が同一街路を通行することは宜しくないかも知れないが、同じ速度の車でも時として追ひ越す必要のあることがある。故に二線はどうしても必要である。

此の上交通の頻繁なる處には停車に備ふる爲めにもう一線を保留するの要がある。最も山林都市には電車はないが電気自動車はあるものと見なければならぬ。電気自動車は燃料節約上我國に於て最も必要であるのみならず、山林都市には最も適當なものな

ればである。乍去二等街路の車道は片側二線合計四線にて事足るべく、三等街路の夫れは回轉の出来る程度又は一線づゝ二線にても宜しいだらうと思ふ。

歩道は主要街路に於ては列樹やポトル地帯を除き、矢張り三線づゝ六線を要するものと思ふ。歩道二條あれば十二線になる譯である。二等街路に於ては二線づゝ四線、三等街路に於ては少くとも合計三線を必要とする。六尺以下の歩道は傘をさせば二人並んで歩くことも出来ず、他人に出會つたら車道に降りなければならず、全く無意味なればである。此の計算は車の一線を八尺乃至九尺、人の一線を二尺とする標準を前提とするものにて、其の路幅は有効幅員のみを意味するものなるが故に、地上架設物がありとすれば其の幅員は更に増加せざるべからざることとは勿論である。

要するに市街の中には地域地區の狀態に應じ車の多く通る道路と人の多く歩く道路とがあるので、車道は二等街路の規準に依るも、歩道は三等道路の標準に従ふべきも

のもあり、車道として三等街路でも歩道として二等街路たるべきものがある。されば標準を定むるには豫め細心の注意を以て諸種の標準を定めねばならぬことは勿論である。而して其の街路はプロットの面積に鑑みて甘く、コールドナイト整調してプロットが小さいのに大きな街路を作つたり、プロットが大きいのに街路が狭かつたりする様なことのない様にしたいものである。而して街路は原則として舗装を要するものと思ふが、全體に亘りて舗装が叶はなければ、せめて主要街路なりとも舗装を施したら宜しからうと思ふ。

此の山林都市は先づ以て叙上の通り其の外形を整へなければならぬことは勿論であるが、若し其の外形が整つたら、徐ろに其の内容を整へなければならぬ。之れは山林都市にとりては最も大切な事であるからである。従來の都市は單に地方制度に依りて公共團體と認められてゐる丈で、丸で一種の寄合世帯に過ぎないが、山林都市は斯

様に無意義なものであつてはならぬ。そは昔の都市の様に充分に共同生活を意識した親交團體であらねばならぬ。之れが爲めには前にも屢々言明した通り、人口が餘り多くてはならぬのみならず、其の組織が能く整へられたものでなければならぬ。其れは師團が四個聯隊から成立つて居ると同時に四十八中隊から組織せられてゐる様に、都市も區や町とに區劃せられて、其の區劃毎に整然たる團體があつて、團體内の親交關係を維持すると共に、自主的に自個に屬する事業を営むものでなければならぬ。此の山林都市は前にも云つた通り人口は精々五萬を限度として居るので、其の戸數は約一萬内外を容れる様に計畫せらるべきものであるが、之を適當に分割して團體生活に都合好く區や町に區劃するのは最も大切な技術である。區は單に行政的區劃であると思つてはならぬ。町も單に地理的名稱に過ぎぬと考へてはならぬ。之れは我々が各種の社會生活を營む爲めに、最も便宜なる團體單位でなければならぬ。

隣保善隣の團體單位としては昔は五人組なるものもあり、十人組タイシブなるものもあり、今日でも幾分其の形骸丈けは残つてゐるが、私は必ずしも之れが回復を企圖するものではない。何となれば之れは親交團體としては餘りに小さ過ぎるからである。乍去一町を區域とする町内組合は親交團體として最も適當な單位と思はれるので之れ丈けは是非回復しなければならぬと思ふ。併し其の組合も餘り大きくては所期の目的を達することが出来なくなるので、之れも適當の範圍に止めなければならぬ。惟ふに此種の團體として昔から最も能く經營せられて來たものは精々百人内外の單位であらうかと思ふ。我國の町組や農村は昔は百戸を超ゆるもの多くはなかつた。英國のソークとかワードとかハンドレッドと稱するものも昔は百人内外から成立つたものらしく、其の後人口の増加したワードはプレシントに分割されてゐる所もあるが、其のプレシントは矢張り百戸内外から成立つて居り、百戸内外の團體は親交團體としても小自治團

體としても産業主義の勃興しない前は、最も恰好なものであつたのである。故に山林都市に於ても住宅敷地百内外を以て一町となす様に計畫し、其の町の住民は之を區域として町内組合を組織し、昔の町組やワードやプレシントの様な、敦厚な親交關係を回復すると同時に、町内に關する各種の改良事業を自治的に施行し得る様にしなければならぬことゝ私は思ふ。

今日は産業萬能の世で唯々働きさへすれば宜しいものゝ様に考へられて、向上や親交の餘裕が與へられてゐないのみならず、昔のやうに町會所もなく親交中心なるものもないので、一町内の人でも滅多に一堂に相會する機會もなく、全く吳越の有様である。されば組合があつても魂のない偶像にも等しく、費用徴收の機關に過ぎないものも少くはなく、共同生活を意識して共同の快樂や共同の幸福を確保する爲めに共同自治の仕事を経営して行かうとしてゐるものは多くはないが、山林都市の町内組合は斯

様なものであつてはならぬ。町内組合なるものは「遠くの親類よりも近くの組合」と云つた風に家族の延長であり、而して都市の縮圖であらねばならず、其處に隣保善隣の思想も共同自治の精神も養成せられなければならぬ。而して其の町の少年少女は親交的中心として設定せられた運動場や俱樂部に於て襁褓の時代から友情の交換をしなければならぬ。主婦も其處に近所の婦人と互に親情を交はすべき機会を得なければならぬ。而して主人達も一日の勤務や作業を終へた後、其處で附近の人達と慰安や娯樂を共にしたり、組中の公事を辯じたりして、共同の生活を向上せしむべく勤めなければならぬ。

區も亦略ぼ同一の精神を以て設定せられなければならぬことは勿論であるが、其の設定は町の様に簡單ではない、能く其の中心や地形をも考へ、約十ヶ町を以て一區となる様にしなければならぬ。之れより大きくては區としての効能を減却するの虞れが

あるので、其の面積は可成一千戸以下に止めなければならぬ。之れは行政区であると否とを問はず、社會的には一種の自治區でなければならぬからである。日本の行政区劃なるものは唯行政上の便宜から區劃せられたもので、社會的要素が無視せられてゐる傾があるのみならず、新たに廣い區域を開拓するにしても全然この要素を無視して頭も胴體もなく單に手足の引延ばしに過ぎないものも少くはない。されば新開地と云へば場末を意味する位で、何等生鮮の氣分を與へないのみならず、區と云つても單に地理的區劃に過ぎぬと思はしむるも當然にて、其の土地や其の社會に對する愛着や共同生活の意識も殆んど起らないのは少しも怪しむに足らない。

乍去山林都市の區は斯くの如き沒意義のものであつてはならない。此の區は親交團體としては町内組合の様に親密に行かなくとも、自治的團體としては町内組合よりも有効なものである。此の區は一面町内組合の様に區民の親交を目的とするものである

が、其の外に一町内の力では經營し切れぬ事業や、聯合の力に依つて經營した方が便利な事業をも營むものである。小學校の維持は勿論の事、其他小學校を中心として行ふを便とする各種の社會事業は此の團體に於て經營すべきである。要する所此の團體は一面兒童の普通教育に任ずるの外、其の界限の各町内組合の少年及青年の教化事業や慰安事業を行つたり學校を中心として消費組合や産業組合の事業を經營したり、一ヶ月に一度位は區域内の全住民の親交を兼ねて各種の催しをなすべきものである。

山林都市としては叙上の如く能く其の町や區を整へて、地方的の事業は地方的協働に依つて之を處理すべきであるが、此等の團體が能く經營し得ざる事業や全市的事業は須らく市に於て之れが經營の任に當るべきである。其の市は市制に基いて管理せられなければならぬ譯であるが、併し鬭争の玩弄物であつてはならぬ。飽くまで東洋固有の徳政主義に基いて一般市民の幸福の爲めに協働するものでなければならぬ。

實に羅馬の流れを酌む權利權力の文明は、世を學つて獸類相噬のアンフキシエターと化してしまい、若し改むる所を知らずんば世界の破滅を來たさんとするの有様であるが、我國の如きも戊辰以後は在來の徳政主義や倫理生活を捨て、羅馬式の文明にかぶれ、到る所に不正の競争や惨忍な鬭争を演じて同じ運命に陥らんとしてゐる。今にして之を覺らずんば他日必ずや噬臍の悔を遺こすであらう。天下何事も人間の批判性を基礎としてゐる。何物と雖も普遍的妥當性がなくて永存するものはない。協働を缺く所の競争は唯々惨酷と窮困とを遺こすのみであり、鬭争は唯々破壊の跡を跟むる丈けである。

國民生活や市民生活は全然協働の倫理性に依つてのみ確保し得るものである。殊に政治の如き大衆に關するものは一層その通りである。古聖は天下國家を治めんとするものは先づ其の意を誠にし其の身を修め其の家を齊へざるべからずと云つたが、私は

其の家を齊へると共に其の市町村を齊へなければならぬと云ひ度い。何となれば此の市町村は家庭の延長にて人間生活に最も密接なる関係を有して居るからである。斯様に其の市町村を齊へるには其の意を誠にして自治政の倫理化を行ふと云ふことは、人間生活の藝術化と共に山林都市に採りては最も重要な要件である。されば此の山林都市に於ては市會の選舉を行ふにも今日日本の諸都市で見ることが如き選舉競争なるものはありやうがない。市會議員は山林都市に於ても市制によりて矢張り三十名は選出せられなければならないので、其れは前記の區を選舉區として各三名づゝ選出すれば宜しい譯である。其の選舉は今日流行のイゴ式鬭争主義に倣ふものではなく、偏に山林都市の精神に従つて協働を旨とするものであるのみならず、町でも區でも前記の通りチャント整へられたならば議員としての適任者が明白になるので、自家廣告も戸別訪問も其の要はなく、競争など云ふ忌はしいことは自然に消滅するのである。此の議

員の主要なる事業は理事者を詮衡するにあるのだ。一度理事者を得たならば絶対に之を信任すれば宜しいのである。其の代り其の理事者たる者は輸入者たると否とを問はず、最も公正な人格者でなければならぬ。而して徳を以て全市民を導くものでなければならぬ。其の期限は四年と定まつて居ても山林都市に於ては此等の形式には一向關係はない。如何なる事業でも經營十年は要することゝて、市の經營の如きは少くとも十年は要するものと見なければならぬ。

山林都市の市民は希臘都市の其れの如く何人でも奮つて義勇的に市の事務に執掌するを原則とすべきであるが、兎も角其の吏員は有給なると無給なるとを問はず、ウエルス氏の夢想してゐる様な「サムライ」でなければならぬ。其れは精神的にも肉體的にも健全な壯年者であつて、社會奉仕の念を以て市の事務に執掌するものでなければならぬ。而して苟も市の事務に執掌するものは上來述べ來つた通り各種の施設を

整へて、市民の向上を計ると共に共同の幸福を庶幾すべきである。これが爲めには市の行政機關なるものは充分に合理的に組織せられなければならない。

日本の市役所の組織は多く直系的ダイレクトになつて計畫的職分プランニングと實行的職分アクションとが混同せられて居るが、山林都市の行政廳は兩職分を區別しなければならぬ。計畫的職分中人事、記録、財政、出納、法制に關することは日本の都市に於ても秘書課とか庶務課と云つた様なものがあつて、其處で取扱はれてゐるけれども、餘り徹底したものではない。兎も角計畫的職分を全ふするには市長の直下に此等の計畫的事務又は豫行的事務を纏めなければならぬ。此の職分中最も重要なものは調査事務であると云はれてゐるが、日本では未だ茲に覺醒しては居らないのみならず、米國のスポイルスポリテイションの様に寧ろ之を否定して居る傾のあるのは遺憾の事である。如何なる政治でも知識の完全なる組織と其の利用とをなすことなしには最善の活動をなすことは出來ず、如何な

る都市も組織的に事實の報告を纏め、合理的に知識の適用をしなければならぬ。若し夫れ調査費の價値を疑ふものがあつたならば工業會社の事業成績を二三頁讀んで見たら判るであらうと米國人さへも云つて居る。何事に依らず苟も科學的に經營しやうと思へば先づ以て調査を要することは論を俟たぬところなれば、他の都市は兎も角山林都市としては是非とも這種の機關を要することと思ふ。

實行的職分としては教育や衛生や市場や組合や幸福増進施設に關する局課は勿論のこと、建築や土木や公園や運動場や下水や水道や、電氣等の建設及維持に關する局課もなければならぬ。此等の局課は在來の各市役所にも設けられてゐないことはないが山林都市の其れはモツト徹底したものでなければならぬ。何となれば山林都市は眞の共同團體であつて、單に法律を以て命ぜられた仕事だけを勤めて能足れりとするものではなく、共同團體其れ自身に屬する總ての事業を辨するものなればである。

而して山林都市の教育課は獨り義務教育を施すを以て満足するものではない、無論男子や女子の爲めに中等教育をも施すものでなければならぬ。英國の田園都市に於ては高等學校ハイスクールの（日本の中等學校と高等學校との中間のもの）位はなくてはならぬと云つてゐる。乍去、山林都市は市民の人格を向上するを以て最大の使命として居るので學校教育のみを以て満足するものではなく、區や町内組合と協同して青年や壯年の男女の爲めに各種の社會的教育を施すものでなければならぬことは勿論である。されば教育課としては前記の圖書館や博物館や藝術館を施設するの外、各種の學術文化會等と協力して一般市民の教化に全力を注がなければならぬ。

衛生課の如きも單に法律に依つて命ぜられた衛生事項のみを取扱ふものでなく、市民の健康を保持する爲めに、病院や診療所は勿論のこと、各種の衛生施設を整へて市民全體の清潔を保つと共に、結核を豫防したり、産兒を保護したりして、病毒に基く人

生の不幸を根絶するに努めなければならぬ。市場の如きも單に日用品の購買に資するのみならず、總ての物品に就き生産者と消費者とが直接接觸し得る機會を與へ、中間者の搾取から都市を救ふ様にしなければならぬ。而して山林都市の市役所なるものは其の精神に鑑みて組合殊に消費組合の事業に就いて全力を注ぎ、之を助長するの道を講じなければならぬ。何となれば之れは山林都市の精神を徹底せしむる所以であるのみならず、市民の幸福を増進する眞の基礎であるからである。

山林都市の社會課は現今日本の都市に於て施行して居る様な救貧事業を行ふものではなく、積極的に幸福の増進を企圖するものでなければならぬ。山林都市には搾取と云ふことが成立たないので極貧者と云ふものはあり得ないからである。其の代り市民の幸福を増進する爲めに教育課や建築課や公園課等と協働して極力慰安向上の機會を與へたり、娛樂の機會を與へたり、生活改善の機會を與へるために努力しなければならぬ。

らぬものと思ふ。

山林都市の建築課は最も重要な役目を有するもので普通の市役所の其れの如く單に市役所に屬せる建物の營繕に任してゐる丈けでなく、前記の建築會社や消費組合や住宅組合と協同して、絶へず市民の爲めに住宅の改良や公館の改造をなすを任としたければならない。土木課や公園課は之れまで述べ來た都市計畫に従つて事業を行つてしまへば其の後は大した仕事はない。下水課も一度其の事業を完成すれば無限に膨脹する都市と異り、單に之を維持して行けば宜しいのである。處が山林都市に於ては土地其物が市民の共有であるのみならず、共同生活を徹底せしむることを目的とするもので一種の消費組合であるが故に、市民が一般に需要するものは之を市役所に於て供給するか、將た消費組合として之れが供給をなさしむるの方法を採らなければならぬ。されば市役所としては一面組合課に於て消費組合を保護して行くと共に公營課なるも

のを設け、上水や電氣は勿論其他公營を以て供給するを便とするものを供給する様にしなければならぬ。若し其の山林都市に於て充分の薪を得られないときは、瓦斯の供給をなすの用意もなければならぬ。又日本では多少米食を節するの要もあるので、市營にてパンやビスケットを製造して之を供給するの要もあらうかと思ふ。

山林都市の市役所にも勸業課なるものがなくてはならないが、併し其れは營利業を獎勵するものではなく、市民一般の幸福を増進する爲めの生産事業を獎勵するものでなければならぬ。而して其れは工業試験場や林業試験場と協力して工業や林業の不斷の改良に任して居るものでなければならぬ。

此等の事務は總て事務管理法に従つて科學的に經營しなければならぬ。併し其の科學的經營法は米國の其れの如く、搾取の目的からでなく、各吏員をして短時間に能く其の能率を發揮せしむると共に各吏員に對し向上の餘裕を與へやうと云ふのである。

此の管理法の細目は玆に詳述しないが、要は三略の卷頭にある通り務めて英雄の心を
 擧り志を衆に通じ衆と好を同ふすることで、畢竟する所山林都市の精神と等しく上下
 心を一にして協働することである。

山林都市の人民は叙上の如く、町や區の自治を整へると共に市政を作振して、各人
 の人格と生活とを向上せしむると共に、共同の幸福を増進しなければならない譯であ
 るが、之れが爲めには何人でも時間的餘裕がなければならぬ。時間的餘裕のない處
 には文化も向上もなく精神的の富も幸福もない。山林都市の人民は能く此の消息を知
 らなければならぬ。

元來山林都市は、工業に依つて商品を作るよりも寧ろ其の施設に依つて人生を創造
 するのが主なる目的であるが故に、一定時間生産の爲めに楽しく働くことも甚だ必要
 であるが、之れと同時に所謂閑暇時を利用して美しく生活しなければならぬ。之れが

爲めには貨物生産に要する労働は原則として七時間位に制限し、人生創造に要する時
 間を充分に與へなければならぬ。而して其の時間内に音楽や藝術や工業や園藝等を修
 練するの餘地と機會とを與へ、日曜日や祝祭日には市の主催の下に、花卉共進會は勿
 論のこと、工藝品や繪畫や彫刻等の展覽會や音樂會や演藝會を開催すべしである。今日
 英國の田園都市で行つてゐるページエントの如きも、我山林都市に於て開催すべきも
 ので市民一同趣味を凝らして行ふものは最も歡迎すべきである。

要するに山林都市は人道や社會改良の見地から、最も衛生的に、最も安全に、最も
 便利に、最も愉快に、最も經濟的に、最も文化的ならしむる爲め、最も合理的に建設
 しなければならぬことと思ふ。然らば之を如何にして造るか云ふ質問も出るであら
 う。其の方法としては英國に於て田園都市を作つて居るが如く、信託會社を興して建
 設することも固より一策である。實に今日の大都市は叙上の通り住むに堪へない状態

にあるので、遠郊近郊に向つて人口のエキゾーダスが盛んに行はれることゝなつてゐる。之れは單に家賃の關係のみではなく、少しでも人間らしい生活をし度いからである。若しも此等の人々が眞に生活の意義に覺醒し、自治團體の苦々しき現狀に愛想を盡かし、人生創造の重要なことを知つたならば更に遠く脱出して新たなる共同生活を開拓しやうと思ふであらう。而して日向の新しき村よりもモット徹底した新しき都市を建設し度いと思ふであらう、此の時に當りホワード氏の様な都市改良家が現れて私の計畫を賛して之を具體化すべく努めてくれたならば、之に應ずる者は決して少くはあるまいと思ふ。若し斯くの如くにして有志を翕合し得たならば之に依りて信託會社を設立し、然る後英國の田園都市のなしつゝあるが如く着々其の計畫を進めて行けば宜しい譯である。

去々都市は工業を離れて生存し難いので山林都市を建設するにも覺醒せる工業家を

説得し、之を中心として此の計畫を實現するのも一方法である。職工五六千人も使用する工場ならば一工場にても人口四五萬を抱擁する都市が必要なのである。五六百人づゝ使用する工場が十もあらば矢張り同様である。山林都市としては二三種の工業に依頼することは好まぬ所であるが、八九の大工業會社を中心として這種の新都市を造ることは必ずしも困難ではあるまいと思ふ。臺灣其の他の殖民地に於ては大會社は原則として、社員や労働者の爲めに社宅なるものを供給して居る。内地に於ても都市を離れて事業を經營するときは社宅を供給して居るものもある。鑛山の如きは其の最も顯著なる例である。之れは工業の科學的經營の見地から來たものでもなく、幸福増進策から來たものでもなく、唯事業上已むべからざるより出でたるものには相違ないけれども、斯くの如きは事業上最も必要なものである。將來の工業家は在來式經營法に依頼して居つてはうまく工業の發展を期待することは出來ない。科學的經營法を採用し

て先進國に於けるが如く勞働コロニーを作ると同時に工業都市を作るの覺悟を持たねばならぬ。

近時歐米に於ては工業のエキゾダスとかエスケープとか云つて、イスラエル人が埃及より脱出したるが如く、大都市から逃出す傾向がある。今日の如く所謂大都市なるものが、膨脹に繼ぐに膨脹を以てし、不秩序、混亂、雜踏を來たし、品川の人が本所の工場に通ひ、本所の人が王子の工場に通ひ、千住の人が品川の工場に通ふ様になつて、無益に時と金を消費して居つたならば、何もかも貴くなつて、工業夫れ自身も不經濟になるに極つて居るのである。殊に都市の土地は無制限に暴騰して、工業の侵入を防禦して居るのみならず地主達は矢鱈に土地投機を行ひ、工業驅逐策を採つて居るので、我國に於ても早晚、工業は大都市から遠く離るゝことゝなるであらうと思ふ。されば將來の大工業家は能く此の趨勢を洞察して、工業經營の爲めの理想都市を

築くの覺悟がなければならぬ。之れは工業夫れ自身の爲めにも利益なるが故に、工業家自身之を企てゝも宜しいことであるが、然かも之れが資本の利用上、本業以外に多大の資本を投下すること出来ぬならば社會改良家其の他の人々と協同して、別に都市經營の會社か將た公益法人を設立しても宜い譯である。

併し我觀を以てせば兎も角にも山林都市を建設するには都市改良家を中心として之を企てるにしても、將又工業家を中心とするにしても兩者の提携を要することは論なきところである。いづれにしても先づ以て株式を募集し、之に依りて都市經營會社を興し英國の田園都市信託會社の様に營利を主とせず、工業従事者の能率増進や幸福増進を目的として、工業的山林都市を建設することにしたなれば、最も便宜であらうと思ふ。

然らば斯くの如き都市を何處に作るかと云ふことが従つて起るべき問題であらう

が、之れは大都市に關係なく、單獨に建設する場合と大都市の衛星都市として作る場合と自ら多少の相違がある。單獨に建設する場合は比較的に廣く其の地位を選定すること出来るけれども、衛星都市として建設する場合は大都市を距ること二三十哩の圏内に之を求めねばならぬ。其の地位は前に略述した原則に基いて、選定しなければならぬことと思ふが、扱て具體的に何處が適地であるかと云ふことは實地調査した後でなければ困難である。

併し東海道線に沿ひ單獨に這種の都市を建設するとしたならば、大磯より山北までの丘陵地方や箱根附近は好適の地方であらう。富士紡績の小山工場の所在地は私の所謂山林都市の建設地として理想的のものである。同會社は同工場を中心として地主組合を作り、其處に築庭的都市計畫を行ふと同時に、都市的設備を施してくれたならば獨り其の工場の利益のみではなく、一般社會の公益となるであらうと思ふ。御殿場よ

り三島に至る間には適地が澤山之れある様に見受けられる。岩淵附近も宜さそうに思ふ。大井川の下流に在る牧野原の中にも適地を發見することが出来はせぬかと思はれる。濱名湖の沿岸も地形より見れば頗る良好である。蒲郡、大府附近に於ても、なくてはならぬ所と思ふ。

東京の衛星都市としては横濱八王子間の丘陵地方、大山界限より青梅附近に至る山麓地方、青梅より鴻巣附近に至る丘陵地方は輪換鐵道だに布設せられたならば好箇の適地となるであらう。習志野、氣賀沼、印幡沼間の丘陵地方に於ても交通機關さへ備へば必ずしも適地を求め難いことはなからうかと思ふ。大阪の衛星都市としては武庫川、池田川の上流地方や、泉南の海岸地方や、紀伊川の流域に於て適地を相すること出来るかも知れないが、さなきだに人口過密で功利主義の旺盛なる地方の事とて斯くの如き適地を手に入れ得るや否やは甚だ不確である。其れにしても、大々大阪を作

り此の上人口を積集して國民の墓地を擴げるよりは曲りなりにも、這種の計畫に基いて人口のデセントラリーゼーションを企てた方が國家の爲めにも社會の爲めにも得策であらうと思ふ。

要するに其の地位は更に精密なる調査を遂げた後にあらざれば確定する能はざるは勿論であるが、兎も角斯くの如き計畫に基いて、山林都市を作つたならば、山林の中に住んで居つても自ら文明の恩澤を蒙り、諸種の都市的娛樂も得られ、而して從來の都市の害毒から免れるのみならず、永へに天地自然の美なる感情をも樂しむことが出來、何人も低廉に文化生活を營むことが出来るであらうと思ふ。

苦し夫れ、斯くの如く其の市民が各々意義ある生活を營むことが出來たならば頭腦も健康も自ら改善せられ、工業の如きも科學的經營の本旨に適ひ、最も圓滿に發達して勞働爭議の如きは決して起らぬであらうと思ふ。如此にして都市の營養たる工業が

山 林 都 市 終

進めば其の都市としても完全に發達しない理由はない。故に私は現在の都市生活に惱める人や社會改良家や、工業の科學的經營者に向つて切に山林都市の築造を勸むるのである。

昭和三年二月廿五日發行

山林都市
正價金六拾五錢



著者 黑谷了太郎

發行者 二村由郎

東京府豊多摩郡野方町上沼袋二百六十五番地

印刷者 鈴木清三

東京市麹町區三番町六十八番地

發行所

東京府豊多摩郡野方町上沼袋二百五十六番地

曠台社

振替名古屋一〇四一〇番

發賣所

東京市神田區仲猿樂町

巖松堂書店

振替東京六五五六番

【行印社文昭町番三區町麹市京東】

廣東省立第一中學

圖書館

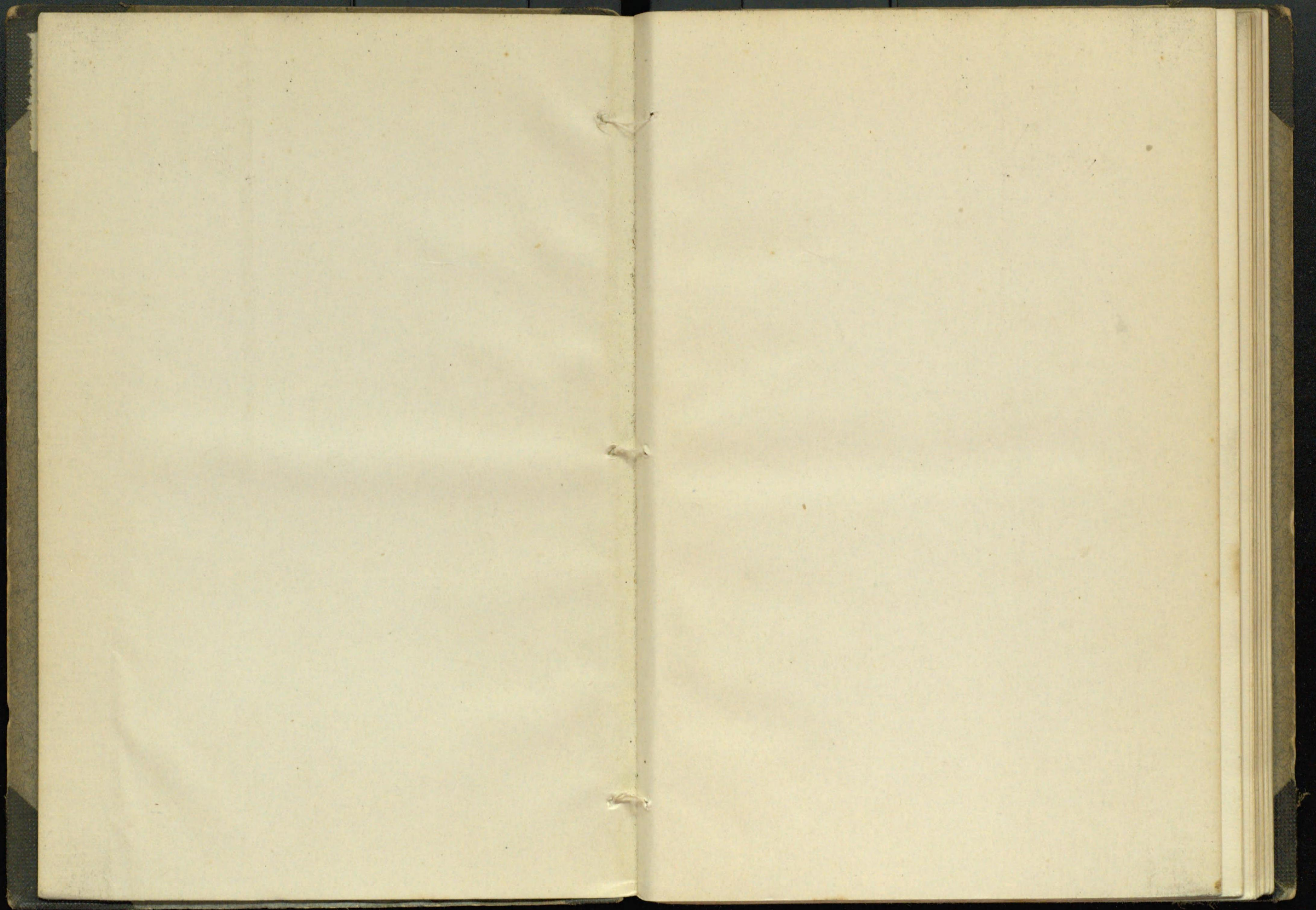
廣東省立第一中學圖書館

總發行

廣東省立第一中學

廣東省立第一中學

廣東省立第一中學圖書館



549
365

NO.

“F-M”
PAMPHLET BINDERS

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thickness
851(菊倍)	30.cm.	x 22.5cm.	x 1cm.
852(四六倍)	26. „	x 18.5 „	x 1 „
853(菊)	22.5 „	x 15. „	x 1 „
854(四六)	18.5 „	x 12.5 „	x 1 „
855(特)	24. „	x 15. „	x 1 „

other sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES OF ALL KINDS

F. MAMIYA & CO.
OSAKA - TOKYO - FUKUOKA

